

此の他、英國經濟史に關するものは、ゼームス・ローゼルス氏の英國産業及商業史、エツチ、ビー、ギツピンス氏の英國産業史、ダブリュー、アスリー氏の他の一著英國經濟史(但し本書は英國經濟史の名を有するも、専ら技藝組合の發達を述ぶ)等の見るべきものありと雖ども、恁る範圍に於ける英國經濟史の攻究は、以上二著を以て恐らく充分なるべけん。

本邦語書の部

歐洲經濟史、又英國經濟史に關する本邦著述は、更に一層寥々たるものにして、到底其の著述の不完全なるものを以て之を神補せんとなすも、竟に得べからず、唯歐洲經濟史として擧ぐべきものは、田尻氏の經濟史眼、其の他一二の講義録を有し、英國經濟史に至りては、終に之を如何ともなす能わざるなり。

法學博士田尻稻次郎著

經濟史眼。東京市神田區一ツ橋通町有斐閣、全一冊、大判五百二十四頁、定價

一圓五十錢。

本書は、既に前に之を豫告せしが如く、かのゼームス・ローゼルス氏の經濟史上の著述を基礎として其の粹を抜き、英を棄め、更に之を資料として著者の見識を附加し、校訂増補、以て經濟史上の一著となす、本書の價値は、既に原書の部に於て之を推稱したりしが、尙ほ煩を厭はず其の大體を陳ぶれば、本書の述説する處は、歐洲各國に於ける經濟現象の變遷發達に關する觀察に在りて、其述説の及ぶ所、單に夫等現象の進化發展の状態を記述するに止まらず、夫等現象の起原由來を示し、又他の社會現象と相關する關係及道程を明らかにし、而して之等論述の爲めに有すべき事實の集蒐は尤も多方面に豊富を極む、今や此の種の本邦著書は、寥々曉天の星の如き現時に於て、實に有益にして貴ぶべき著述と云ふべし、ローゼルス氏の著書と對照の便を計り、今左に内容の目次を擧ぐれば、

一、總論、二、勢力に關する立法及其の效果、三、救貧法、四、自地耕作、及賃借耕作、五、英國に於ける地代の沿革、六、宗教の社會に及ぼせる効果、七、貿易及通商條約、八、英國保護政略の沿革、九、殖民地貿易の起因、及發達、十、貿易表の説明、十一、内國製造事業、十二、組合及徒弟組織、十三、歷史上物價高低の原因結果、十四、貨幣、十五、競争及獨占、十六、投機恐

僥及商業沈滯十七、放任主義及政府事業十八、租稅十九、國債二十、西曆千八百十五年
來の財政的經濟立法。

更に之を講義録中より覓むれば、

法學博士和田垣健三講

西洋經濟史。早稻田大學講義録(凡例參照)

伴野乙郎講

經濟史論。講義録(凡例參照)

前者は未だ完結に至らず、如何とも之を評するを得ずと雖ども、予は氏に依りて
せる書の講述せらるゝを諸氏に豫告し置くの太だ利益なるを信ずるが故に、茲には
單に題名を示し、諸氏が後來の便に供へ置くべし、後者は歐洲の上古より、近代に至
る其經濟發展の梗概を叙述せるものにして、研究上其の簡單なる叙述は、多くの裨
益を與ふるものと推稱するを得ずと雖ども、唯發展の大綱を知らんが爲めには、其
の皆無に満足せんよりも比較的勝れるものあるべけん。

日本經濟史

日本經濟史は今や研究途上に在りて、専ら之に任じて研究の歩を進めつゝありと
謂ふ内田銀藏氏の簡單なる講義録の外、今日本經濟史として世に存するもの一も
あるなし、然るに、日本經濟史の一般的研究乃至參考書は、右内田銀藏氏之を最も
宜良善に指示せらるゝが故に、予は道を諸氏に示して該科研究の著書に充てんと
す、印ち左に列擧するもの之なり。

菅沼貞風著

大日本商業史。東京市神田表神保町、八尾新助書店、大判全一冊七百餘頁、定

價壹圓也。

本書は、太古草創の時期より、寛文年間に至る我が國商業の變遷進化を、太古上古、中
古、今古の四期に分ち、紙數六百參拾參頁に涉りて細説詳述す、分疏肯綮に當り、考
證尤も正確、其の凡そ外國通商に關するものは、殆んど網羅して遺す所なし、且つ、商
業發展の盛衰盈虧の由る所は一々之に論斷を加へ、政策法令の關する所には適宜
に解説を下し、在來の商業史中、優に一頭を抜くものと謂ふべし、七百餘頁中、殘部百
二十八頁は、平戸貿易志を附録として掲げたるものなり。

文學博士横井時冬著

日本商業史。日本橋區本町三丁目、金港堂、全一冊、大判三百四十二頁、定價壹

圓貳十錢。

管沼氏の著書は、述説寛文年間徳川氏の鎖港に筆を断ち、邇く近時に迫らざるは太だ遺憾と謂ふべし、而して此缺點を補ひ、更に我が國上代より、二千五百餘年の商業發達の真相を穿てるものは、本書横井氏の日本商業史之なり、本書の述説する處、最て詳密を求めずと雖ども、該博なる材料と、正確なる考證に依りて事象の要索を捕へ、統一整備を計りて巧みに其の綱領を講述せり、前掲管沼氏の著書と併せ讀まんに、恐らく本邦商業史の一般研究を達するに遺憾なかるべし。

文學博士横井時冬著

日本工業史。東京市京橋區南傳馬町一丁目、吉川半七發行、全一冊、大判三百

六十頁、定價七十錢。

本書は上古我が國工業の狀態より、最近時に亘る諸種の工藝、例令、陶器、磁器、漆器、織物、刺繍、蒔繪、彫刻、玻璃器、染物、刀劍造船、銅器、製紙、紡績、製糸、石膏型、銅版、煉瓦、七寶、燒寸

花菱、麥稈、眞田、印刷術等、苟も工業工藝に關する一切の事項は、之を歴代の史籍に隨ふて其の變遷發達の狀況を叙述し、我が國工藝と名付くべき全種類の主題は殆んど之を網羅して漏すなし、素より、三百數十頁の小冊子を以て唯一專攻に値すべき述説をものする能はざるや論なしと雖ども、其の記事正確、微證肯綮に當り、一般研究の以て憑據と爲すべきの價値は、在來の著書中本書を以て最とすべきなり。

農商務省編纂

大日本農政類編。東京市麴町區飯田町五丁目、近藤活版所發行、全一冊、六百

餘頁、定價貳圓。

本書は、上代よりの我が國農政に關する規制の一般を編纂せるものにして、農政に關する史籍の參考書として尤も有益なる價値を有す、其の制類は、勸農、祭典、職官、法制、田積、田類、土功、牧畜、山林、漁獵、賑濟、禁致の十二種にして、更に其の主題の内容を概説すれば、

勸業。我が國は既に國名に水穗の國の稱を有する如く、古來農を以て立國の本とし、天津去々火瓊々杵尊の農桑の業を肇め給ひし以來、歷朝朝廷に於ても農事に心

を用ひさせ給ひ、勸業の事は特に常に心を篤く注がれ給ひけり、本篇は之等の由來施置を記す。

祭典。祭典の創始は、天照大神の神祇を祭り給ひて、廣く民衆邦土の康福を購らせ給ひしに在り、爾來、歷朝祭典は又治國の基となり、即ち、祭政一致の本柱に定まり、民心安集、其の業を勵み、厚生利用の大道術として深く農政に關す、本篇は即ち此の規制を史述す。

職官。政は職官に依りて立つ、職官の良否は、政綱の良否の係る所、之等職官の制綱は、古來如何、本篇は此の經歷を記す。

法制。古來の農事に關する法制の次第を説く。

田積。古來田圃の區劃を立て、町段を定めし規制習慣を叙す。

田類。神の産ましめ給へる我が神洲は、神の御惠に依りて神田、王田、民田、其の他特に佛閣神社等に屬するものを分ち、其の類を立て、稱を異にす、本篇は之等の規制を記録す。

賦役。租税の代りに身勞役に服するの制を記述す。

土功。上代より池溝を穿ち、堤防を築き、以て農業に便せしもの夥なからず、其の狀禮を記録す。

牧畜。即ち古來牧畜の有様を記す。

山林。山林經營の事を記す。

漁獵。古來漁獵を營み來りし狀態を録す。

販濟。太古より歷朝往々朝廷に米穀を蓄藏し、不時兇荒の場合に之を利用して民衆を救濟せり、本篇即ち此等の事例を記録す。

集致。本篇には種々、特に農政に關する百工技藝の歴史上の事蹟を網羅載録す。

萩野由之著

日本財政史。東京日本橋區通三丁目博文館發行、全一冊、小判二百七十四頁

定價四十五錢

本書は、王朝封建時代、王朝郡縣時代、武家封建時代、徳川幕府、王政維新後に於ける我が國財政の一般を述説し、或は賦役に關し、或は賦稅徵收法に關し、或は田制、田租、關庸、貢賦等の規制より、會計官の官制、莊園と財政の關係、又鎌倉幕府の策定より、公債

及貨幣紙幣の關係等、時に歴代の沿革に亘り、時に各時代の狀態に關し、其の制定規準、講策、實施の綱領を叙説す、素小冊子に屬し、其の詳細の説明に迫ぶ能はざるは、言なきも、全體の上に於て能く其の要緊を捕へ、一般の事歴を明らかにせり、我が國歴代の財政に關する大體の經由は、本書に就て大略之を窺知するを得べし。

北海道廳編

北海道志、北海道札幌區大通西三丁目七番地、北海道同盟著譯館發行、全二冊、小判上卷四百七十八頁、定價壹圓、下卷四百三十八頁、定價壹圓

本書は、北海道の發達史にして、其の地理上の沿革より、風俗、産業、人物、政治、外事、物産等の發達沿革を記述し、調査、周密、記事詳確、北海道開發の由來に關する資料は、殆んど蒐集採録せりと謂ふも可なり、殊に單に發達上の記事に止まらず、事業の實際方法に關する手續の變遷説明より、人口、氣候、産業、開拓に關する統計をも表に依りて之を示し、要用なる箇所には適當の地圖を挿入して一覽の便を供へ、參照觀察太だ勉めたり、北海道の發達に關する研究書乃至參考書としては、先づ本書を以て最とすべく、我が國經濟の發展に關し、又以て有要の一書たるべきなり。

神宮司廳編纂發行

古事類苑、泉貨部稱量部 全一冊、八ツ折大形五百九十四頁、定價不明

本類苑は、帝王部、文學部、神祇部、姓名部、泉貨部、稱量部、法律部、禮式部、武技部の九編を編纂し、卷數六卷より成る、内、泉貨部稱量部は、我國歷史上に於ける經濟に關する記録、及び遺物を調査編輯し、泉貨即ち貨幣即ち金銀貨幣紙幣に關する記事と、稱量、即ち度量衡に關する記事とを太古時代より、近世に涉りて其の性質、形狀、規制等を詳密に載録す、其の貨幣に關するもの、度量衡に關するもの、總て因據を示し、徵證を擧ぐ之等の變遷に就て討究せんとせば、須らく先づ本書に其の考證を求むるに如くものなく、我が國經濟史の研究書としては、又以て必須の用をなすものたるべし、其の參考の資料に至りては、一般研究者に取りては、殆んど遺憾なく本書を以て満足するを得べし。

徳川光圀修

大日本史、食貨史部 舊本の事故定價記し難し、

本書は、我が國に於ける尤も有名なる史著の一にして、冊數實に百數十卷に及ぶ、本

編食貨史は、我國經濟に關する事實の發達を述説せるものにして、卷數唐本十四冊紙數大畧千貳百頁、其の記する處、財政、產業、農業、殖産等の多方面に涉り、戸口、田制、賦役、倉庫、封鎖、賑恤、驛傳、馬牛、市肆、交易、莊園等、簡明にして時々其の要に觸れて論證し、參考の資料太だ豊富にして又詳確なり、但し、本書は漢文を以て之を記述し、時に意義散漫に失するものあれど、全體の上に於て行文平易、簡潔流暢に能く其の要旨を捕捉せり。

勝安房編輯

吹 塵 錄 大藏省出版

本書は、幕府財務の實況を記述せんが爲め、勝伯が數百種の公文、私記、隨筆、傳説等を考查採輯し、以て一大卷冊をなせるもの、全卷三部、五千有餘頁の記録に達し、貨幣、度量衡、通商、鑛山、軍役、治水等、其の他百般の財務的事項に關する幕府の踐跡を蒐集す、就中貨幣に關する參考の資料は、太だ豊富にして其他、徳川治世の財務に關する主なる事項も考證探究の資料涌くが如く、併し、全體より本書の價值を謂へば、専ら専門家の考查檢察の料に資すべき記録集にして、一般研究者の參考としては或は餘

りに専門に瀕するなきやを覺ゆ、殊に未だ何等經濟的素養なき諸氏の考證資料としては、單に記録の聚集に止まるが故に、統一的判斷を本書に依りて享けんと恐らく難事に屬すべし、本書は普通賣品たらざるを以て、圖書館或は省官省の藏庫に據りて便覽するの外道なし

野中準編

大日本租稅志 唐本三十冊 舊刊定價不明 古書肆に購ふか 圖書館に就て閱讀するの外なし。

本書は、古來我が國が制規し來たりし租稅の性質、種類、及其の徵收方法等に關し、歴史上の記録諸種の事蹟に徴して其の變遷を詳述せるもの、考證正確、審査周密、十分參考信憑するの價值を有す、我が國經濟發展の租稅に關する討究は、殆んど遺憾なく本書に依りて考證檢索するを得べけん。

以上舉げ來たりし十數書は之れ文學博士内田銀藏氏の教示する處、元來之れ一般研究の目的に依りてもものと雖ども、以上を以て精究の地歩を進めなば、恐らく専門の識を以て任ずるも多く背く處なきに至るべけん、以上の外、日本經濟史として

一貫の述説をなせるもの、氏が早稻田大學に講述せられたる一部の講義録之なり
即ち書體を左に示せば、

内田銀藏講

日本經濟史。早稻田大學講義録(凡例參照)全一冊、百二十頁。

右は、日本上代の經濟情態より、近代の發達に至る史的變遷を最も簡單に講述せるものにして、講義素より其の梗概に止まれども、最も初期の講義書としては綱領繁に當りて大系を捕捉せるが故に、太だ恰當とす、今内容の時代分けを示せば、上古、奈良及平安時代、鎌倉室町時代、江戸時代之なり。

第六章 應用經濟學

應用の理法は最も廣汎にして複雑なる理義を包含す、道は宇宙の理源は、極底に之を追求せば、或は一根一元の絕對原理に投一するとあらんも、吾人が感官に觸れ理智に合し、當面の實社會的現象として合理の差別相を顯現せる現象にありては、總て之れ相對的關係に相複合し、一も純一單獨に存在するものなく、今一現象に一理法の原理を應用せんと欲すれば、他現象の理法之に聯關するもの太だ尠なからず、偏に當面の主題の原理のみに依據して其現象の真相を攝理せんとするも、到底偏重に陥りて圓滿なる解決を與ふると不可能に屬すればなり、之を以て眞に應用の理法を究めんと欲すれば、勢ひ多方面の理法に通曉する處なかるべからず、之れ應用の單に一科の原理を攷究するよりも更に難しとする所以なり。

今經濟學に於ても、眞に應用の理法を究めんと欲すれば、嘗に經濟の根源理法に就て研究するのみならず、其の現象の相關聯係する諸般の理數に就ても廣く之を研駁該究する處なかるべからず、然るに普通應用經濟學と謂へる意味には、廣狹二様

の意義を有し、廣義に於ては、社會百般の經濟事項に經濟原理の應用を操縦するの智能を考究するを意味し、狹義に於ては、ある特殊の經濟事象を經濟理法に依りて論究組織せし一科の科學的述説を意味す、前者は即ち社會の家際問題乃至可能的實際問題に觸れ、其の經濟理法を推展して適切なる解釋を下し、以て専ら社會の實益を催進するを目的とするものを謂ひ、後者はかの財政學、商業經濟、工業經濟、農業經濟等の如き一主題の理法に就て攷究し、主として學理の研究を本旨とするものを謂ふ、而して今之等兩義の意味に於て、應用經濟學理の詳密なる討究を逐げんと欲すれば、俱に共に深奥洪大なる原則理數を含み、到底短歲月の研究を以てして其の眞意義を啓發する能わざるや、論なし、されば爰に予が所謂應用經濟學の研究參考書として採擧するものは、單に前章以上に掲げ來たれる經濟原理の神補とし、其の著述の専ら應用の學理に屬するものを廣義に於ける應用經濟學の參考書として數種攝取し、其の狹義に於ける各應用學科に關する著述は、只其の參考迄に一般の概念を修得するに資するを以て目的とするのみ、若し然らずんば、廣義に於ける應用經濟學理の研究參考書としては、殆んど之を收録するに其の際限を劃す

るに極底なく、狹義に於ける各學科の研究參考書としては、深く専門に入りて其の範圍の達する處を悉く示さざるを得ざればなり、唯各應用學科中財政の一科に至りては、性質全く私經濟と其基礎を異にし、他應用經濟學科即ち農工商經濟學等の如く、私經濟の原理と其の形體様式内容の次序を均しくするものにあらざるが故に特に別主題として稍詳細なる研究參考書を掲げ置くこととすべし。

第一節 財政學

(但し狹義財政學を意味す)

財政學は國家の經營を主とし、其の經營に要する財貨の支出收入保管に就て研究する學科にして、其財貨運轉の理法に於て、私人經濟學の原理に、關聯するもの多しと雖ども、其の財貨に對する經濟當接者は、國家の至上權に基き、全く私人經濟と相乖違せる原則に憑據せる關係を有し、經濟學理のを以てして直ちに之に蒞むべからざる特殊の原則を包含す、之を以て財政學の名目は、其の性質上吾人の所謂經濟

學と稱する名目中に包容すべからざるものと主張する論者もありて、全然其の綱紀を別種にするものに非ずと雖ども、而かも尙ほ一科特殊の渾然たる主題として之に研究を注ぐの範圍と分量を有す、然るに財政學の科學的研究の歴史は太だ近代のとに屬し、殊に英語書に於ては、シー、エフ、バスタープルの著書を除くの外、其の一般原理に關する統一的著書としては一も採擧するに足るものなく、彼の獨佛の財政學者、ワグナー氏、ポリュエー氏、コーン氏は、今日尙ほ世の尤も信憑推稱する斯學の泰斗にして、之等に對する譯書は、英語書及本邦語書に之を有すれども、何れも多く譯述拙劣にして、誤譯晦澁の箇所尠ならず、未だ以て特筆紹介するに足らず、更に本邦著書に於て、財政學の著述に關する効績如何と謂ふに、斯學に關する研究の進歩は今僅かに其の緒に就けるの觀をなし、未だ一も既著の見るべきものあるなく、今本書の旨意に従ひ、英語及本邦語書中より遺憾なく其の一般原理に關する財政學の研究乃至參考書を摺摭せんは甚だ難事に屬す、否其の取捨撰擇に依りて稍々完全に數種の著述を駢舉收録するの材源を有せざるなり、之を以て予は已を得ず、諸氏の熱心なる推理該究の努力に依頼し、在來の著書中稍見るに足るべきも

のは悉く之を採擧し、以て諸氏の比較研究の便を計り置くとすべし。

英語書の部

シー、エフ、バスタープルの財政學

C.F. Bastable; Public Finance (London: Macmillan & Co.) 全一冊、大冊五百餘頁、定價七

圓五十錢 12s.6

氏はダヴリン大學の經濟學擔任教授にして、本書財政學は、管に氏の著述の最たるのみならず、英原書中財政の一般原理に關する唯一の良書にして、其の學礎は多く獨逸系統に出づと雖ども、各學者の偏重せる廣狹長短の得夫を圓滿に咀嚼し、主題の整齊宜に當り、推論の道程法に適ひ、説く處皆能く穩切にして、健確、實際に涉りては事實の稽查深く、論說に至りては諸大家の引證廣く、而して全體に於て常に均衡を保ちて終始結論を正式に表示せるが故に、學生の思想を健全確的ならしむるの點に於て殊に推稱するに足る、若し諸氏にして、勉勵本書に熟讀を重ねなば、財政學の一斑原則と財政の主なる事項とは、殆んど遺憾なく修習するを得べけん、内容の

目次を略述せば、

緒論。第一編。公共支出、國家經濟概論、防禦費、司法及警察、行政監督事務、教育宗教の國家との關係上に來たる財政事項、商工業獎勵費、中央及地方經費、支出に關する或一般の問題。第二編。公共收入、公共收入の種類と分類、官有財産、工業的官業資本家としての政府官有財産。第三編。租税の原理、其の定義及分類、租税の一般性質、租税の分配、租税制度、其の種類、租税の負擔、地方税の原理。第四編。公收入論、地租、資本及産業に課する租税、人税及勞銀税、財産税及所得税、消費税、其分類、内國物品税、關稅、通信行爲及相續に對する租税。第五編。支出と收入の關係、國庫準備金制度、公債と其の近代の發達、英國々債の沿革、佛國及其他の邦國に於ける國債の沿革、公債用及公債の原理、公債の種類、償還及借換、地方債。第六編。財務行政及財政監督、其の沿革の豫算の調成及收入の徵收、支出の監督及會計検査。

本書の本邦語譯は、井上辰九郎氏、高野岩三郎氏共譯にて翻譯せらる、譯述概もすれば直譯に落ち、意義晦澁して原意茫漠として捕捉し難き箇所なきに非ずと雖ども、大略原著書の見解を傳ふるに誤る處なく、單獨の講讀書としては解讀に勞苦を感

ずるとあらんも、まだ十分原語を咀嚼する能はざる諸氏が、原書釋讀の參考たらしめんには、其の裨益する處蓋し小少ならざるべし、書名定價は即ち左の如し。

井上辰九郎、高野岩三郎共譯

財政學 東京市牛込區早稻田大學出版、全一冊、大判千〇六十八頁、定價二圓二十錢

エッチ、シー、アダムス財政學

H.C. Adams; Science of Finance. (New York: Henry Holt & Co.) 全一冊、大判五百七十三頁、定價八圓也、\$3.50

氏はミチガン大學の教授にして、夙に有數なる財政學者として世に名あり、本書財政學の一般書は、前半に歲出の意義、方法、目的に就て、其の如何にして決定せらるべきかの一般原則理法を攻究し、財政に關する立法を支配する憲法、又は國會に依りて定めらるゝ其規定より、國庫の組織監督に對する行政的原理を論駁し、其の後半に歲入の源泉を駭究して、官有地及官有事業より來たる歲入、及其の國財保管の方法規定より、租税の原則、公債の理法に移りて論究詳説す、全體の上より見解穩切に

して識量該博、結構又明截にして述説宜きを得、殊に社會的課税説の批評、鐵道其他諸會社に對する課税に關する所説の如き、太だ見るべきもの鮮なからずと雖ども一般原理に關する著書としては、繁簡に權衡を失し、論説往々専門に過ぐるありて、氏の別著公債論に比すれば處々整齊の配置を缺けるもの又尠少なからず、唯一の良書としては遂に之を推稱する能はざるなり、然れども其の所論述説の健全にして散漫せざる、優に翫讀參考するの價値を有するものと謂ふべし。

チー、コーン 財政學

Gustav Cohn, The Science of Finance. Trans by T. B. Veblen. (The University of Chicago Press)

著者 大正七年九月十四日、東京十國五十號、

原著者コーン氏は、獨逸に於ける財政學の大家にして、本原書財政學は、財政の一般原理に關し趣味豊富に健實なる實證と剴切なる論説を以て述作せられ、尤も吾人の信憑參考するに足るものなれど、當譯書は、意義の咀嚼に、譯述の校練に十分其の効を奏せず、吾人の最も翫讀を想望する箇所にして揣摩臆説を敢てせしもの尠なからず、予は特筆して其の推稱を諸氏に致すを得ずと雖ども、既に財政に關する

概念の稍健全に素養せらるゝあれば、本書に依りて吾人の啓發せらるゝもの亦無しとせず、殊に本書に於ける省略の必要、本邦學生に取りても直ちに移して其の宜を得たるが故に、原著書の要旨を簡便に解釋するの便をも有し、一面の缺點を以て立所に放擲し去るべき譯書には非ず、宜しく素養を有せる諸氏は、翫味熟讀以て其の裨益を享くべきなり、今譯書の内容を目次に示せば、

緒言、一、經濟學に於ける財政學の地位、關係及其の獨立性、二、財政學の歴史上の發達、第一編、一、國家と其公職、二、公經濟の史的發展、三、公共貢獻の諸種類、四、公共機關の財政的關係、五、自治制と任意主義、六、公共經濟に於ける秩序と整頓、七、公共に要せらるゝ種々の必要物と使用物に就て、第二編、租税の原理、一、租税の公正、二、租税の賦課せらるゝ目的、三、租税の歴史上に於ける形式、四、租税制度、五、租税行政、第三編、全部省略、本編は獨逸の租税法を記述せるものなるが、専門家の參考に資すべき外一般原理に關しては左程重を置くに足らず、一般の講讀を豫期せる著者の省略としては必ずしも咎むるに足らざるなり、第四編、公債、一、公債の歴史、二、現代に於ける公債、

本書は本邦語に天野爲之氏に依りて翻譯せらる、原語を解せざる諸氏は宜しく本書に就て攷究すべきなり。

天野爲之著

コーン財政學 東京市神田區裏神保町富山房大判壹千二百五十六頁、定價

二圓五十錢。

當本邦語譯書も、其の純理論に屬し又實際の考證に關する議論に對しては、太だ首肯し難き譯述を有すれども、氏の明哲該博なる學殖に依りて校練せられたるが故に、一般の原理に關する説明に至りては、平明にして序あり順あり、又少しく困難の解讀を要する箇所には自己の判斷に依りて適當なる補説を加ふるが故に、假令初學者と雖ども先づ其の要旨の一斑は就て大畧窺ふを得べし。

ダブリーニ、エム、ダニエル 財政要論

W. M. Daniels, Elements of Public Finance. (New York: Henry Holt & Co.) 全一冊、小判三頁

七十三頁、定價參圓五十錢、\$ 1.50

氏はプリンストン大學に於ける經濟學の教授にして、本書財政要論は、教科書體に

財政の一般原理を講述せるもの、文章明快流麗にして所説穩當、能く實際を咀嚼せり、氏の學説は全體の上に於て保守的にして、例令其の租稅論に於て新稅法主義を執るとなく、從來の租稅を整理するを主義となし、堅忍其の舊説を維持せんとするが如き、或は公共所有權及獨占に來たる大多數の行動に反對し、合意聯合の舊論説を法律の制限に依りて維持すべしとなすが如き、太だ舊事を墨守するの外觀を有すれども、氏が自説に對して論究説明する處、吾人が就て一顧を寄すべきもの敢て鮮少なりとせず、學説の兩端に依りて其の眞價を味はんと欲する諸氏は、宜しく一讀を本書に拂ふべきなり。

カール、シー、ブレン 初等財政學

Carl C. Plehn, Introduction to Public Finance. (London: Macmillan & Co.) 全一冊、大判定價

三圓八十五錢也、Gs. 6d

本書は、卷を歳出歳入公債財政處理の四部門に分ち、其の一般原理を平明に講述せるものにして、全然教科書的述説に結構せられ、従つて學生の初等研究書として尤も簡明に其の綱領を説明せんとを易めたり、既に一貫の素養を有する諸氏に向

ひては、或は論說平愈に過ぎて參考の價值なき箇所多からんが、能く簡單に紛争せる議論の要旨を辨明し、自から學生をして自家の考究を原理の解釋に向けしむるの方法を執りしは、大に初學者の講讀に適合せり、始めて斯學に志を有する諸氏は、宜しく本書に就て其の一般を窺知すべし。

ルイギ・コッサー 財政學

Luigi Cossa, Taxation. (New York: G.P. Putnam's Sons.) 全一冊、小冊百七十九頁、硬皮二

圓二十五錢。

本英譯書は「タキセーション」の題名を有すれども、原書の書名は財政學にして、道は唯書卷の専ら租税に重を置けるが故に、其の内容を明示せんが爲め便宜上悉く命名せしに依るものなるべし、原著者コッサー氏は、伊太利經濟學者の大家にして、氏の著述は夙に歐洲各國に洽く愛重せらる、本書財政學は、財政の一斑原理と其の實際方法に關する原則理法を簡潔に論述せるものにして、意見秀拔、識量該博なりと雖ども、述説餘りに簡に過ぎて到底精密なる討究の用をなさず、唯初學者の綱領を修養すべき一著としては、今日猶ほ、拔擢紹介するに足るを信ず、其の内容の目次を

示せば

第一編 財政學の概念、範圍、特質、本源、部門、歴史的經過、第二編 公共歳出の概念、性質、分類等、第三編 公共收入の概念、分類、策置、方式、制規、基本等、第四編 歳入及歳出の關係。

本書は本邦語の譯書を有す、相照應研鑽せば、啓發する處小少ならざるべし、書名定價即ち左の如し、

和田垣謙三譯

財政學 東京市日本區通三丁目、金港堂、全一冊、大判三百九十二頁、定價一圓三十錢

但し本書は獨逸譯書より更に重譯せしものにして、譯述原意に忠實なるの餘り、往々文辭稠綴に流れ、意義爲めに回旋するものありと雖ども、英譯書と對照研鑽せんが爲めには、太だ有益なる指導を藏す、又單獨なる講究書となすも、少しく熟考を凝がんには、原著の旨意は大半之を就修するを得べきなり。

財政學の一般書の名を有する著書に於ては、以上の著述を以て足れりとす、然れど

も、財政學に於て其の中心とも謂つべき研究主題は、彼の租税論の攷究にして、一國租税の施設に關する畫策制定の良否如何は、忽ち國家經綸の消長に拘り、國民發展の暢達疲衰に關係す、之を以て、苟も財政學を攷究せんと欲する諸氏は、須らく眞摯堅忍の志操を以て尤も熱心に租税論の討究に従事せざるべからず、而して今以上の一般書以外に、特に本題に研究を試みたる著述中、其の良善にして參考の價値を有するものは大略左の數書とす

チー、アール、マツカロック租税及其の根本制度

T. R. McCulloch; Taxation and the Founding System. (London: Longman Brown, Green, and Longmans.) 全一冊、大判四百六十六頁、定價八圓也、 15s.

本書は財政學に關する英語書中、其の完全なる著述の一に屬し、今日に於ては所論稍陳腐となれる箇所も往々にして之れ在りと雖ども、租税の一般原則に關し、殊に從來世界各國が踏襲せる租税法に就て、其の利害得失亦良否善惡の理法を論說すると詳精健實を極め、更に又其の平明にして流暢なる文章は、吾人初學者の研究の便を供すると其だ多く、其の直接税と間接税の理法に關する説明論究は、今日に於

て尙ほ吾人の一讀を値ひすると、其の陳腐なる箇所を償ふて餘りありと謂ふべし、今内容の目次を示せば、

第一編、直接租税、此の編、地代利潤勞銀財產收入に對する租税の原則を論ず、第二編、間接租税、此の編、間接税の便不便、必需品、贅澤品、粗製品等に課する租税、境界税、輸出入税、外國製品及内國製品税、遺產税、郵便税等を論述し、第三編、根本制度の各章には、租税制度の種類發達便不便及國債との關係を述べ、

イー、ブーン、ヘー、セリグマン租税論

E. R. A. Seligman; The shifting and Incidence of Taxation. (New York: Macmillan & Co.) 全一冊、大判四百餘頁、定價六圓五十錢、 \$3.00

” Progressive Taxation. 同會社發行、全一冊、大判二百餘頁、定價參圓五十錢、 \$1.50

氏はコロンビヤ大學の教授にして、亞米利加に於ける財政學者中尤も創見に富める學者として夙に世に重視せらる、前掲の二書は、氏の秀拔なる學說を披陳せるものと謂ふべく、其の累進税に關する論說、又租税の轉嫁に關する所論の如き、所説劃

切にして實際の策設に關し有力なる見解を披瀝し、其の議論の據る處又健全該博にして吾人が周密なる研究の心度を拂ふに足る、氏は以上二書の外、同會社より發刊せる租税法及租税制度に關して其の原則理法を論說せる他の一書、即ち「エッセイ・イン・タキゼーション」(代價三ドル、即ち郵税を合し凡そ本邦の六圓五十錢に相當す)を有し、以上二書に漏れたる議論所説の足らざるを補ふ、諸氏若し以上三書に一讀を拂はゞ其の獲る所蓋し鮮少ならざるべし、文章は明確にして難澁なし。

アール、イタリ、亞米利加合衆國及其の市府に於ける現行租税

R. Ely: Taxation in American States and Cities. (New York: Thomas Y. Crowell & Co.) 全一冊、

子世田田三十四、稅價四圓、 \$1.75

氏は當時尤も進取の氣概に富める博覽達識の學者なると既に前に之を述べたり、本書は題意に示す如く、事實を亞米利加邦國及其の市府の實際に蒐集し、以て租税の制度、原則に評論述説を加へたるものなるが故に、直接本邦人士の研究に適せざるが如しと雖ども、其の材料の豊富にして殆んど租税一切の種類を網羅して餘さざるが如き、大に參考の資料を吾人に提供するものにして、殊に其の述説に於ても

租税の定義及分類に關する見解は、理論健全に廣く實際に通じ、更に又氏が財産課税に根本的缺點あるとを論究せるものは、見識秀抜にして革新の器宇を表彰し、吾人後進者の最も一讀を拂ふの價值を有す、本書は我が國家永鹽澤二氏に依りて翻譯せらる、即ち左に掲ぐるもの之なり、

家永豊吉鹽澤昌貞合譯

威氏租稅論、東京市日本橋區通三丁目丸善發行、全一冊、小判四百八十八頁、定價一圓。

譯述平易原説を解する事多く誤る處なし、原語を解せざる諸氏の本書に就て原意の一斑を窺ふと左迄困難を感じざるべけん、但し本書は、原書の四篇中の第二篇(米國各洲市の實驗に就て述ぶ)第四編(租税に關する米國各洲市の憲法及法律の規定を叙す)を特に米國のみに關するものとして省畧し、其の第一篇(租税の大要を概論す)第三篇(各種の租税を詳論す)を譯述す、

デュー、エー、ウエツル、ス租稅論

D. A. Wells; The Theory and Practice of Taxation (New York: D. Appleton & Co.) 全一冊、小

此十四頁、十四頁、十四頁、十四頁、

本書は數多の租稅論中、尤も教科書的述説の順序に配列せられ、租稅法及租稅論の歴史的述説より、其の定義、部門、目的、即ち租稅の根本理法に就て攷究し、更に國家の組織と租稅の關係を講説し來たりて、其の種々の形體、組織、制度に論及し、最後に以上の論説を結修して租稅の眞價に就て詳述す、全體の上より、綱紀整然として究理の順序を追ひ、特に創見として見るべきものなしと雖ども、文章平明懇切能く租稅の要旨を説述し、其の實際に於ける考證に至りても、材料豊富にして詳細なる記事を加ふ、唯議論の甚だしく抽象に涉るものは、文章旋回意義複雑に走り、釋讀に稍苦しむものありと雖ども、一般に其の述説の目的を果せるものと謂ふべし、諸氏宜しく就て一讀せらるべきなり。

テュー、デー、シールマン 自然的租稅

F. G. Shearman; Natural Taxation. (New York: Doubleday & Mc Clure Co.) 全一冊、小冊二百五十二頁、凡そ二二四

本書は租稅の性質を以て自然的なるや人為的なるやの疑問を提出し、其の自然的

租稅の存在を肯定論述せるものにして、命題一見尤も純理抽象の議論を包含するものゝ如く、或は題意既に難解を豫言するものと想ふ人もあらんが、其の實一面平凡を以てすべきが如く通俗平易に特殊の租稅に就て論證し、太だ趣味津津たる一著を形成す、而して議論の據る處忠實に諸學者の見解意向を咀嚼し、亦實際に就て廣く考證審査す、少しく原書を解する諸氏は、宜しく就て參考すべきなり。

予は租稅に關する特別著書の參考するに足るべきものは以上數書を以て足れりとす、而して更に財政學の他の要用部門に屬する公債論、豫算論に關して其の參考を値ひすべき著書を求むれば、何れも先に掲げたる一般書の述説以上に出づるもの尠なく、只夫等の中、殊に諸氏に紹介するに足れりと思ふものは、僅かにアダムス氏の公債論一著を有するのみ、強て豫算論に關し稍見るに足るべきものを求むれば、ウキルソン氏の著書とす、されど、本書の價値は到底之を特筆大書する能はざるなり。

エツチ、シー、アダム 公債論

H. C. Adams; Public Debts. (New York: D. Appleton and Co.) 全一冊、大冊三百九十九頁、

第六章 應用經濟學 財政學

英國五回、

本書は、氏が芳名を負持せる著書とも謂つべく、其の論理的述説に於ても又事實の考證に關しても尤も明快該博を極め、終始丹精を凝らして全卷の言論を統一せるが故に、秩序整々として事理渾然たる組織をなし、吾人研究者の智識を正確豊富ならしむの効果は、英語書中最良のものに屬す、公債の理法に關しては、必ず一讀を拂ふべき研究書たるべし、本書の内容を略述せば、卷を三編に分ち、第一編、財政學としての公債發行に關し、一、近世各國の國債、二、國債の政治上に及ぼす結果、三、國債の社會上に及ぼす結果、四、國債の經濟上に及ぼす結果、五、政府の公債を募集すべき場合に就て論説し、第二編、國債に關し、一、軍事財政政策、二、國債の種類、三、軍事財政の種類、四、平時に於ける公債の管理法、五、公債の償還に就て論究し、第三編、地方債、起業公債に關し、一、地方債と國債の比較、二、近世各國の國債、三、市債、四、政府債制限策に就て論述す。

本書に對する邦語譯書は、小野英次郎氏に依りて翻譯せらる、即ち左に掲ぐるもの之なり、

小野英次郎譯

アダムス公債論、東京市日本橋區彌左衛門町、經濟雜誌社、全一冊、大判五百

四十二頁、定價八十錢、

譯述後半を除いては忠實にして簡明なりと謂ふべし、唯往々にして譯義回旋釋讀に難ずるものありと雖ども、這是譯書の多く免かれがたき缺點にして、全體の上より單獨に講讀せられざるものに非ず、原語を解せざる諸氏は、宜しく本書に就て講修する處あるべきなり、但し本原書は、其の一編二編を天野爲之氏に依りても譯述せらる、而して氏の譯述は、例の平易明快なる文章を以てす、相對照せば、發明する處蓋し鮮少なからざるべし、當譯述は、早稻田大學の講義録に在り、講讀を望まると諸氏は他の講義録購入の手續に依りて買求せらるべし、

ウキルソン豫算論

A. J. Wilson; The National Budget. (London: Macmillan & Co.) 全一冊、大判百七十六頁、

英價五ヶ七十錢

本書は豫算論の名を有するも、専門に豫算の原則原理を攷究せしものに非ず、多く

歳入歳出の狀態を英國史上に照らして説明講究し、唯豫算の因て起り、因て決する關係を側面より説述して以て吾人に豫算の何たるかを學ばしむ、深く研究せんと欲する諸氏の参考書としては遂に良善の著書と云ふを得ずと雖も、初學者の一般研究に對しては、尠なくも一讀の價値は之を有すべし

以上の外、財政に關する論述は經濟原論書中に見るべきもの太だ尠ならず、殊に、「アダムスミス」富國論、第五編國家經濟の學理、セロン、スチワード、ミル經濟原論、第五卷、第二章乃至第八章は、特に留意熟讀するの重要部分に屬す

本邦語書の部

本邦に於ける財政學の研究は日尙ほ淺く、其の著書の量に於ても數に於ても、未だ多く攻究研鑽の途上に多分の疑惑を包有せるは疑ふべからざる事實にして、從つて著述の傑出せるものを特に採掲するを得ずと雖ども、吾人が専ら依て以て研究の地歩を任ずるに足るべきものを採擇せば、略ぼ左に列擧するものを以て良善となすべし

添田壽一著	財政通論
下村宏著	財政學
寺田勇吉共譯	財政原論
平塚定三郎共譯	財政と金融
田尻稻次郎著	日本財政史
萩野由之著	歐洲財政史
小林丑三郎講	財政學
田島錦治著	財政學
瀧本美夫解説	財政學
宇都宮鼎述	財政學
税租局譯	高等租稅論
田中穂積著	租稅論
嵯峨根不二郎述	租稅論
高田早苗著	租稅論
町田忠治著	直稅及間稅

- 野 中 準 著 日本租稅史
- 田 中 穂 積 著 公 債 論
- 田 尻 稻 次 郎 述 公 債 論
- 松 崎 藏 之 助 述 國 債 論
- 大 藏 省 關 國 債 沿 革 略
- 駒 井 重 格 譯 豫 算 論
- 松 崎 藏 之 助 著 歲 計 豫 算 論
- 中 根 重 一 譯 歲 計 豫 算 論

此他英語書部に掲げたる本邦語譯書は其の條下に就て引見講讀を計らるべし、以下順次其の内容に就て紹介すべし

添田壽一著

財政通論 東京市日本橋區本町三丁目、金港堂、全二冊、上卷大判三百〇二頁、九十錢、下卷大判三百頁、六十五錢。

本書は財政學の一般原理に關し、其の大要を尤も通俗平易に述説し、未だ經濟學の

素要なきものにも充分其の大意を修領するを得、始めて斯學に志す諸氏は、宜しく本書に就て其の一般智識を講修すべきなり、今本書の内容を示せば、上卷に財政の起原、定義、範圍、性質、他の諸科學との關係、學說の沿革等より、經費の定義、區分、法則、必要、監督、増減等に關する論述、更に收入の意義、限度、區分、沿革、増減、監督等の説明より、收支適合の題下に、其の適合の意義、限度、不適合の場合、補填の方法、國債、地方財政の一斑原則を講究し、下卷に歲計論を詳述して其の性質、起源、發達の狀態より、豫算に關する攷究を明らかにす。

下村宏著

財政學 神田區裏神保町七、明法堂發行、大判八百〇一頁、定價貳圓也。

本書も又財政學の一般原理に關する著述にして、財政に關する題目の總てを網羅す、先づ其の内容を示せば、總論に財政の觀念、範圍、特質より、財政學の意義、地位、及斯學の發達を敘述し、第二編に、經費論を述べ、經費の觀念、發達、原則、分類に亘りて詳述し、第三編を有償收入論、無償收入論の二部に分ち、有償收入論には、官有財産の意義、管理、利害等より、官行商工業及交通業の性質、作用、利害、真相等を論説し、無償收入

論に租税の觀念、原則、分類、分配、制度、負擔に關する議論乃至説明を加へ、第四編收支適合論に、公債の觀念、分類、募集、管理、償還に關する論究、地方債の必要、趨勢、原由を附説し、所説平明にして一般理法の述説を完ふせるものと謂ふべく、唯餘りに財政事項の種類を説明するに廣汎に涉り、爲めに種類豊富に過ぎて論説精細の域に達する能はざるの憾あれど、終始科學的述説を以て細心學說の統一を助めれば、初學者の初頭觀念を獲得せんが爲めに尤も適當なる一書たるべきなり。

寺田勇吉、平塚定二郎共譯

エーヘルビヒ財政原論、東京神田區表神保町、八尾書店、全一冊、小判四百九

十四頁、定價壹圓也。

原著者エーヘルビヒ氏は獨逸有數の財政學者にして、本書は財政の一般原理に關し、甚だ穩切周密なる講述を加ふ、氏の議論として特に見るべきものなしと雖ども、其の述説の方法に於て、獨逸に於ける財政學者の學說を遍く蒐集し、之を適當の順序に整頓して財政講究者の比較討究の便を計れるが故に、吾人が研究の地歩を進むるに當り、太だ有益なる參考を供し、又以て研究者の熟讀すべき有要の著書たり、

譯述の技倆に至りては、巧妙的確の讚辭を以てするを得ずと雖ども、曖昧なる箇所は在來の譯書中僅少なるものに屬す、今内容の目次を示せば、

總論、財政の性質、財政學の意義、諸科學及實際との關係、財政學の歴史、第一編、歳出論、其の定義、性質、類別等、第二編、歳入論、國家歳入の定義、類別を述べ、營業收入、官領地、作業及商業手数料等より、租税に關する原理、原則、種類、性質等の、其の全般に涉りて實際に關する方法を述べ、第三編、歳入歳出關係論、財政の秩序、國債の定義、種類、性質、整理、償還、作用、第四編、財務行政、財務官廳の實際及豫算出納、決算及監督法等、

田尻稻次郎著

財政と金融、東京神田區表神保町、同文館發賣、全一冊、大判八百十頁、定價二

圓四十錢。

實際に通ぜざる社會科學の研究は、常に研究者自身に取りて空理空論の事たるのみならず、其の孜孜研鑽の結果も多く一方觀の偏見に陥りて、其の實際に適切なる理法を發見すると難し、我が邦今や智識の開發旺盛の域を極め、學理研究の勢は恰

も滔々たる大河の堤防を切つて漲り進むが如く、一國文運の進暢因て見るべきものありと雖ども、潮流の勢に乗つて眞理の彼岸に心愴がる、學者の多くは、抽象純理の理論にのみ心酔して、實際的研究に願望する所太だ尠なし、然るに、財政學の如き性質既に純正經濟學の應用に屬し、一面には國家行政學と密接の關係を保ち、而して其の目的は全然國家の實際的經綸に存するもの、にありては、殊に實際的智能を研鑽するの必要瞬刻も忽諸に附すべからず、則ち本書財政と金融は、此の間の研究に於て尤も有益なる一著にして、財政に密昵切要の關係を有する金融との關係理法を論説し、公債、租稅、豫算の金融に對する原則乃至原理を討究すると詳細に涉り、財政の經濟理法に基く方面に拘はる重要問題は、殆んど遺憾なく述説論講せられたり、氏は此の他の著書に於ても英國ゼボンス氏の學理を咀嚼攝理する處尠なからざるが、本書も同氏の財政と通貨の關係に於ける研究なる著書に負ふ處甚だ多し、而かも其の理法を述説するに平明にして穩切なる、初學者に取りては却て前者よりも本書を以て講讀に便にして益ありとす、予が英語書の部に右ゼボンス氏の著書を約したるは本邦語に本書を有するが故に依るものにして、財政の研究に

稍地步を進めたる諸氏は、宜しく全卷に亘りて細心なる一顧を拂ふべきなり。

萩野由之著

日本財政史。本書は日本經濟史部に掲ぐ就て見られよ

小林丑三郎講

歐洲財政史。東京專修學校發行全一冊大判壹百頁定價五十錢。

史的研究の何れの學科にも切要なるが如く、財政學の研究に於ても財政史の研究又緊要の事項に屬すれども、眞に財政史の研究を遂行せんには、單に財政事項の歴史上の經由に止まらず、一國政治政體の發展より、制度文物の發達、經濟事實の變遷等、古來國家の經綸に關せし社會事項の史的發達に關し、詳細なる討究查覈を拂はざるべからず、之れ財政の性質たる、一面財貨收支の理法經濟原理の法則に支配せらるゝも、一面一國行政の政策事項に屬し、全く政治的意義に支配せらるゝものなほなり、然るに、斯くの如き研究態度は、事太だ専門的職業に屬し、其の數量に於て一般研究者の追修に達せざる事遠し、之を以て、予は財政史としては僅かに其の一斑梗概を示せるものを採録し、諸氏が後來の専門的研究の輪廓を示し置くとに止む

べし、而かも此の目的を果すに十全なる著書は遂に之を我が著書界に見出すを得ず、唯其の名目を有するものを掲ぐれば、以上二書即ち之なり、日本財政史の内容書價は既に之を日本經濟史の部に述べたるが故に爰に省畧し、歐洲經濟史に就て少しく介述すれば、本書は、古代財政の状態より、希臘羅馬中世、近世、十七、十八、十九世紀の近代迄の歐洲諸國の財政事實の發達沿革を叙し、其の歳出歳入經費國債等の狀況は、之を別表に作製して一覽を計れり、元來本書は同校に於ける學生用の講義録に止まるが故に著者も始めより之を公にするの素志を有せざりしなるべく、隨つて其の論述する所整齊統一の校練に缺くるものあるや言ふを俟たず、其講述の内容に至りても、目錄的簡單なる解説に止まり、未だ以て財政史講究の目的を果たすに足れりと謂ふを得ずと雖ども、大略歐洲各國の國別に隨ひ、其の年代と事件に應じて、財政史の輪廓は就て學ぶを得べし。

以上の外財政の一般原理に關する著書にして、未だ完結に至らずと雖ども諸氏に紹介すべきもの三著あり、左に掲ぐるもの之なり、

田島錦治著

財政學 東京神田區一ツ橋通、有斐閣發行、上卷、大判正價八十五錢。

瀧本美夫解説

ワグナー氏財政學 東京神田區表神保町、同文館、上卷、大判正價八十錢。

宇都宮鼎述

財政學 講義録内至雜誌掲載(凡例参照)

以上の三著は共に未だ述作内至解説又講義中に在りて、完備終了に至らずと雖ども、何れも財政學の一般總論は之を終了し、而して吾人が財政一般書に就て學ぶ所のもの多く以上總論中に比較討究の緊要なる所論を收藏するが故に、予は皆其上卷即ち未結不完の書冊に係はらず、尙ほ之を収録して諸氏の一讀に供するの必要を見るものなり、更に予は以下三書の價值を簡單に紹介せん。

田島氏の著書は、之を最近財政學と稱し、題名を以て財政學に關する最近の學說を述説するものなることを表示す、然り、氏は既に經濟學原論に於て、獨逸系統に出づる廣義經濟學の梗概を汎述し、以て吾人に最近學說の大勢を示されたるが、同書に對する所感は直ちに本書に移して毫も不可なきかを覺ゆ、本書の財政學の一般原理

に關して論說する處、廣く學說の長短を査覈し、深く事理の真相を推究し、其の所志の存する處遠大深奥にして尤も學理的考究の遂達にありと雖ども、汎論的述說の統一上言爰に迫ぶを得ず、其の一斑に涉れる論說は寧ろ平凡の體様を備ふるに至れり、然れども、斯くの如く氏が平々に説き去り論じ來たる處、次序順を追ふて平明ならざるなく、其の長所の炳焉たるが如く、其の缺點も又瞭然として暗誥する處なく、秀拔なる學說の價值に依りて諸氏に之を推稱するを得ずと雖ども、在來の學說を淘汰し、財政の一斑原理に關する説明を徹述せる點に於て特に初學者の修學に適切なるものたるを信ず。

氏の著述と駢び用ひ、吾人の財政學上の智識を明確ならしむるの點に於て參考の價值を有するは都宇宮氏の講義録とす、其の内容論說未だ整齊統一に缺くるものありと雖ども、平易簡明に財政の新原理を述說し、初學者をして一讀其の一斑原理を了得せしむるの點に於ては、有益にして又穩便なる講述とす、初めて斯學に志す諸氏は、宜しく就て一讀すべきなり。

ワグナー氏は獨逸屈指の財政學者にして、一代の大家一世の憑徴として斯界の尊重を享く氏の述作が如何に深達該博にして、事理に通じ理論に豊富なるかは、予が敢て爰に喋々の言を須ひざるなり、然るに氏の著述や尤も洪辯光大にして、巧みに原語を解する人と雖ども、全巻を通讀するに尙ほ幾多の日月を要す、今瀧本氏之を僅々三百頁に足らぬ小冊子二巻を以て其の第一第二兩巻を綱要せんとす、其の業の至難のものたるや言ふを埃たざれども、氏は能く繁を去り要を捕へ、簡潔明快に其梗概を解説せるの伎倆は吾人の以て多とする處、嘗に原著の綱領を世に紹介するの効績に止まらず、又以て吾人に財政學の趣味深かき智識を賦與するものと云ふべし、予は氏が解説書下巻に對しては未だ何等の言を致すを得ずと雖ども、本書上巻の一斑原理に關する解説は、在來の解説書中其の優勝のものとして諸氏に介するを憚らざるなり。

租稅局譯

租 稅 論 全二冊、上卷五百九十餘頁、下卷六百四十餘頁、時價凡そ貳圓參拾錢。

本書は佛國ポリユール氏の著述を翻譯したるものにして、原著者ポリユール氏は財政

學の大家として遍く世界に尊重せられ、氏の財政學は今猶ほ斯界の嚮導たり、本書は其の一篇租稅論を譯述し、租稅の原理原則より、其の方法策置に至るまで、苟も租稅に關する事項は論じ來たり説き去りて殆んど餘す處なく、事實と理論に尤も該博詳細を極む、予は敢て譯述の巧妙秀拔を稱揚するを得ずと雖ども、而かも本書の熟讀を諸氏に推稱するに躊躇するの要を見ざるなり、唯惜むらくば本書既に絶版に屬し、其の購入の困難なるにあり、前掲の書價の如き、之れ古書肆に就て時價を聞き合せし迄に過ぎざるなり。

田中穂積著

高等租稅論 東京早稻田大學發行全一冊、大判四百十二頁、定價金壹圓貳拾

錢。

本書は、租稅の沿革、歲入の分類、租稅の定義及其の術語、又其の本質分類、直稅と間接稅の利害、租稅の源泉、重稅と輕稅、租稅の轉嫁及歸着、租稅の經濟上に及ぼす影響、單稅及重複稅、累進稅と比例稅、租稅の原則に就て稍詳細なる説明論究を加ふ、言論一般理法に涉りて整具し、所説穩切にして初等の智識を啓發するに適す、諸氏以て一

讀參考すべき著書たり。

嵯峨根不二郎講

租稅論 講義錄二百三十頁、(凡例參照)

本書は租稅の一般原則理法に就き、尤も通俗平易に而かも科學的述説を以て其の全般を明快に講説す、前者を講讀するに先立ち、本書を一讀し置かんには、其の參考啓發の効果を收むると太だ尠なからざるべし、但し本書は講義錄なるの故を以て、或は購入の不便を有すべけん、然らんには本書と同一程度に於て亦畧ぼ同一の價値を有する著書は高田早苗氏の著述とす、左に掲ぐるもの之なり。

高田早苗著

租稅論 東京麹町區三番町五十三番地横田書房發行大判三百十五頁、定價

凡そ七十錢。

本書は其の大綱をポリュー氏及マッカロック氏の著述に辿り、尤も平易通俗に租稅の一斑原理を論究説明す、初學者の攷究書としては太だ適應なる一書なり。

町田忠治著

第六章 應用經濟學 財政學

直税及間税 東京神田區小川町十番地集成社全一冊、小判百十頁、凡そ二十
五錢

租税論中、初學者に取り複雑にして暗澹望洋の感を起さしむるものは直税間税の
關係とす、本書は此の區別に就て尤も大膽に又比較的明快に事理を攷究せるもの
にして、其の論旨悉く之を稱賛するを得ずと雖ども、其の忌憚なき言論と筆鋒とに
依り、直税間税の性質を窺知するに有益なる述説を收む、初學者は宜しく一讀を拂
みて本問題の一斑を就て學ぶべきなり。

野中準著

日本租税史

本書に就ては之を日本經濟史部に於て述べたり、租税史の財政學研究に取り緊要
なるは予が敢て茲に喋々を俟たず、諸氏宜しく當部に就て購讀の手續を閱覽し、以
て熟讀考慮を拂はるべし。

田中穂積著

公債論 東京市神田區裏神保町明法堂發行全一冊、大判二百七十頁、定價八

十五錢

本書は公債の沿革、學說、本質、定義、私債との別、募集の場合、非常準備金、公債と租税の
關係、公債の種類、得失、發行、借換、償還、費用、負擔の輕重、各國公債の沿革及其の情況に
就て講究し、所論秀拔ならずと雖ども、能く在來の學說を綜合し、穩切に一般理法及
原則を論説す、稍旨意文章の爲めに漫然たるものありと雖ども、初學者の因て以て
一讀すべき著述たるべし。

田尻稻次郎著

公債論 東京神田區一ツ橋通有斐閣發行全一冊、大判六百十二頁、定價壹圓
五十錢

本書は氏が例の平易明晰なる文字を以て、公債の諸原則に就き周密なる論述を載
ひるもの、内容の價値に至りては、世既に定論あり、予が敢て爰に喋々するの要を見
ずと雖ども、所説穩健切實にして、初學者の研究書としては良善なるもの、先づ公債
論に研鑽の地歩を進めんと欲するものは、宜しく就て熟讀を拂ふべきなり、今内容
の題目を示せば、第一卷に公債の意義、起因、私債との區別、非常準備との關係、經濟上

に及ぼす效驗、租税との關係、各種公債の得失、公債募集の方法、種類、公債證書發行方法を述べ、第二卷に、償還と借換の意義、方法、眞價等を諸外國の經濟事情に考證論證し、第三卷に、公債證書に租税を課すべきや否や、公債に付き政府と債主間の約束、變更、公債より起る負擔の輕重、不換紙幣の意義、目的、方法、其の發行狀況等を歐洲諸國の實驗に徴して論述す。

松崎藏之助講

國債論 早稻田大學講義錄 一百三十六頁

本書は素と講義錄に止まるが故に、まだ統一整齊に缺くる處ありと雖ども、國債の起原、起因變遷の歴史、財政信用、確定公債、憲法と國債の關係、確定國債に關する政府及人民の權利、更に又其の種類、管理、國債の價值、利子、償還に就き法理的論説を加ふ既に財政學の一般原理に素養を有する諸氏は宜しく就て一讀すべきなり。

國債沿革略 大藏省刊行

本書は大政維新以後、明治三十三年三月三十一日に至る本邦國債の沿革專歴を略述す、其の諸種の債券を録すると皆實際の情況を實記せるが故に、財政學研究の實

際の考證として太だ有益なる編纂なり、唯本書私書肆發行の書冊たらざるが爲に少しく購入に不便あり、若し閱覽の便宜を有するあらば、必ず就て一顧を拂ふべし

駒井重格譯

歲計豫算論 東京市神田區今川小路專修學校發行全一冊、大判二百八頁、定

價三十五錢

本書はポリユー氏の豫算論を譯述せるものにして、各國の豫算法を比較論究し、其の原理原則の問題に關しては議論秀抜にして學理に富み、其の方法に關しては遍く例を各國に取りて周匝切實を極め、而して譯述明瞭にして確實なるが故に、豫算論を講究せんと欲する諸氏は、須らく先づ本書に就て翫讀を計るべし。

松崎藏之助述

歲計豫算論 講義錄 (凡例參照)

本講義錄は、豫算の本義を専ら理論上より講述せるものにして、意義稍複雜に流れ、動もすれば疑義を挿むものありと雖ども、全體の上に思索推考に富み、吾人の學理上の智識を催進せしむるもの又尠なしとせず、豫算論の一斑原則を修習せし諸氏

は、宜しく一讀を拂ふて参考の資に供すべし。

中根重一譯

歳計豫算論 東京市銀座四丁目博聞社全一冊、小判百十六頁、定價二十五錢
本書はルードルフ・グナイスト氏の著述を譯述せるものにして、豫算の本義を専ら法理上又政治上より講究す、所論端嚴にして、理義周密、豫算論を攷究せんと欲する諸氏の將に一讀を拂ふべき著書たり、譯述稍綢緞回旋せりと雖ども、熟考の勞を惜ひなくんば敢て解讀するに難からざるなり。
以上の諸書を以て財政學の一般理法は之を就修するを得べしと雖ども、財政學の性質たるや、前にも述べたるが如く、一面より之を觀れば其の攷究の主として國家の財政に存するが爲めに、亦以て國家諸學の一なりと謂ふべく、從つて眞に財政學の研究を全ふせんが爲めには、之等一般經濟的理法に關する著書以外に、更に國家諸學に屬する諸學科中、尠なくも國家學憲法學國法學行政學の一般に涉りては、必ず講究する所なかるべからざるは、敢て予が喋々を須ひざるなり。

第二節 農工商經濟にする學科

農工商經濟に關する原則理法は、純正經濟學の原理に基き、其の根源理法の推究より來たる純應用經濟學科に屬し、單に其の經濟的理法の關係性質に於ては、特殊的別種の原則を有せず、然れども農工商其れ自體の作用に於て、各、特殊の結構を固有するが故に、夫等特殊の性質作用の經濟的行動に及ぼす關係自然千差萬別なる應用經濟理法の形態を誘致し、從つて其の範圍に於て特に吾人か部門的研究の必要を生じ來たる、されば眞に農工商經濟の理法を研究せんが爲めには、豫め其の經濟的理法の研究に先立ち、先づ農工商其れ自體の本性特質に就て遍く該究する處なかるべからざるなり、然るに之等の特殊事項たるや、全く經濟學理法と關係を別にし、主として自然科學若しくは經濟學自餘の社會學科に屬するものなるを以て、夫等類別の研究よりして其經濟上の理法に研究の歩を進め行くが如きは、之れ尤も専門的研究の態度を任ずるもの、爲す所、經濟學の一般研究者に取りては、稍域外の事項に屬するものならざるべからず、之を以て、予が爰に本節題目の研究書乃至

參考書として収録するものは、唯其の應用理法の梗概を示すを直接の目的となし、農工商自體の性質作用に關しては、夫等著書の總論中の述説を以て足れりとすべく、從つて之等の著書も尤も一般讀者の讀過に易き本邦語書を採録するの方針を取り、原書は一切之を省略するととなしぬ。

一、農業經濟學に關する著書

新渡戸稻造著

農業本論 日本橋區本石町三丁目裝華書房全一冊、大判四百五十四頁、定價壹圓貳十錢。

本書は農の定義、農業の定義、農學の範圍、農事に於ける學理の應用、農業の分類、農業と國民の衛生、農業と人口、農業と風俗人情、農民と政治思想、農業と地文、農の貴重なる所以に就き尤も科學的の攻究に富める論説を加ふ、本書の價値は世既に定論あり苟も農事てふ觀念を呼び起すもの、其の研究の方面の如何に係はらず、先づ熟讀翫味すべき一著たるや、予が敢て爰に贅冗の辯を要せざるとなるべし。

横井時敬佐々木祐太郎共著

農業原論

日本橋區馬喰町二丁目興文社大判四百餘頁、定價壹圓貳十錢

本書は卷を農業原論、作物各論、土壤論、肥料論、栽培論、養畜論、養蠶論、農業經濟の八編に分ち、農業の性質本義効用より、其の發育栽培等の方法に至る迄、一面よりは農業其のものを直接の研究對境となし、他面よりは其の經濟理法に關する原則を平明流暢に述説せり、所説能く實際の一斑に亘りて津々たる興趣を有し、理論亦簡潔に統一を守りて通徹す、農業經濟を研究せんと欲する人士の、先づ一讀を要すべき著書と謂ふべし。

石坂橋樹著

最近農業經濟論 東京日本橋區通三丁目成美堂書店全一冊、六百六十頁、定價凡そ壹圓

本書は農業經濟の一般原理法則を論述せるものにして、材料を本邦内至歐洲各國の農事より蒐集し、論理穩切、亦學理的統一に富めり、殊に本書は説明周到にして主題の大綱を整一するに勉めたるが故に、初學者の研究書として太だ恰當なるを覺ゆ。

澤村眞横井時敬共著

農業經濟學 東京市日本橋區本町三丁目博文館全一冊、參百餘頁、定價五十

五錢

本書は前者と等しく農業經濟の一斑理法を述説せるものにして、通俗平易を旨とし、簡明に全般の原理に涉りて説明論述す、所論明確、前者と相對照せば、互に裨補啓發して農業經濟學の一般に通達するを得べけん。

高岡熊雄譯

農政學 東京日本橋區本石町三丁目裝華書房全一冊、大判五百九十八頁、定

價一圓八十錢

本書は、獨逸ホン、デル、コルツ氏の農、業政策學を譯述せるものにして、農政學の意義本質より、獨逸農業制度の實際を討究し、大農小農の利害得失より、農業經濟の一國經濟に及ぼす關係の理法に至る迄、吾人が依て以て參考討究すべきもの尠なからず、而して譯述平明なるを以て、初學者と雖ども尙ほ就て其の一般を窺ふを得べし

伊藤清藏著

農業金融論

東京日本橋區本石町三丁目裝華書房全一冊、大判六百二十三頁

定價一圓八十錢

本書は農業金融の理法に關する、即ち農業金融機關の農業經營に關する原則理法を攻究し、土地資本信用の其金融上に於ける關係、又其の金融の結果より來たるべき農業發達の理法等を論述し、一般書としては、實際に於ける農業に關する諸銀行の詳述に過ぎて稍不妥當なるの虞あれど、農業經濟に關しては尠なくも一讀すべき著述たるべし。

予は以上を以て農業經濟に關する一般研究の著書は十分足れりと信ず、之等の諸書は皆之れ最近時の出版に係るもののみなるが、其の量に於ても數に於ても、他商工經濟に關する著書に比すれば、遙かに進達完備せるを見る、實に吾人は、以上の現象を見るに及んで深く斯界の爲めに歡喜の情を禁ずる能はざると同時に、商工業經濟に關する特殊的研究が、徒らに聲にのみ高くして其の實際に遂達せられたるもの太だ尠なきを嘆ぜざるを得ざるなり。

二、商工業經濟學に關する著學

清水泰吉著

商業經濟學 東京日本橋區本町三丁目博文館全一冊三百〇六頁定價五十
五錢

本書は商業の概念種類發展等の説明より、商業經濟の要素たる商人、商品、商務の三
方面に涉りて其の經濟上の原則理法を攷究し、更に商業經濟の機關市場の關係に
就て論述す、所説尤も特殊的研究に富み、繁簡宜しさを得て平明なり。

岩村茂譯

商業經濟學 東京日本橋區三十間堀一丁目交通學社全一冊三百十二頁定價
七十錢

本書は獨逸レキンス氏の商業經濟論を意譯し、商業の本性作用目的等を論述す、一
般理法に涉りては特に卓出せるものなしと雖ども、其の自餘の社會的現象との關
係を論じ、亦商業政策の梗概を述ぶるもの平明にして穩健なり、前者と併せ讀まん

には、商業經濟の一般に通じて認る處尠なかるべし。

關一著

商業政策學 東京日本橋區通一丁目大倉書店全一冊三百七十頁定價壹圓
本書は商業の意義本質を究め、内國商政と外國商政の方策目的由來本義等に就き
諸學者の意見と實際の觀察に依りて穩切に其の一般を論述す、目下世に行はれつ
ゝある商政の梗概、亦本來商政なるものゝ如何なるものなるかは、本書に依りて平
易に之を修むるを得。

東爽五郎著

商業政策學 東京日本橋區通一丁目大倉書店全一冊三百餘頁定價壹圓
本書又商業政策の内容性質に關し、其の一般的説明を加ふるものにして、通俗と平
明を以て優る、前者の參考として一讀すべきなり

桑田熊藏講

工業經濟論 經濟叢書掲載 (凡例參照)

本書は工業經濟の主眼沿革より、工業の都市及資本との關係、大工業小工業の利害

得失、更に又其の相互の關係、國際貿易と工業政策、機械の應用と労働者の利害等に關する論說より、工場法、労働保險、職工組合、工業調停、労働者と産業組合等に對し尤も常識に富める述說を加ふ、本書を以て工業經濟に關する周匝なる講述と稱するを得ずと雖ども、平易通俗にして而かも科學的推究に背かざるの點は、以て一般研究者の講讀書として紹介するに足る。

佐藤五百蔵、河合勇共著

工業經濟學 東京日橋區本町三丁目博文館全一冊、三百餘頁、定價五十五錢
本書は本題の綱領を述說し、著しく前者と其の内容に於て又價値に於て異なる所なしと雖ども、旨意の統一、述說の排置に關し、聊か趣を異にすると同時に、之に依りて前者の模稜を開發するものなきにあらず、宜しく就て參考すべきなり。

窪田隆次郎著

工業政策 日本橋區本町三丁目博文館全一冊、定價五十五錢

本書は工業政策の何たるかを論じ、其の主眼方策等の一斑を網要的に述說す、吾人は本書を以て研究書として諸氏に推稱するを得ずと雖も、如何せん他に工業政策

に關する詳細なる著書の世に存するなく、唯其の大意を諸氏が修習せんが爲めの資料として、暫く爰に紹介する事となしぬ。

平田東助、湯川寛吉共譯

商工經濟論 東京市京橋區築地一丁目國光社全一冊、定價一圓八十錢

本書は獨逸經濟學の泰斗、ロツセル氏の經濟學要論中、其の一篇商工經濟論を譯述せるものにして、氏が學問の精考證の博、百家を網羅し、諸説を兼綜せるもの一事は、予が爰に嗽々を敢てする迄もなきとにして、本書商工經濟論は、商工業の本性作用を自然の方面より亦人爲の方面より遺憾なく該究す、唯論究詳細に涉れるの結果、述說冗漫に流れて一般研究者の資料としては聊か不適當の箇所なきにあらずと雖ども、一般素養を修得せる諸氏が、就て參考すべきもの決して鮮少ならざるべし、譯文所々に生硬の譯語、曖昧の譯述を有すれども、眞に研究の態度を以て望まんに、其の大體を學ぶに左迄誤るとなかるべし。

以上商工經濟に關する諸書は、其の統一に於ても、整齊に於ても、俱に共に不備不悉なるや言を俟たずと雖ども、斯界の研究は今漸く覺醒進達の途中にて、今暫くは其

の時期の到來を待つの外なかるべし。

第三節 應用經濟法に關する著書雜書

經濟學の應用理法に關する著書雜書は、之を廣く究め來たれば殆んど際限なく、其の英語書に於けるも、本邦語書に於けるも、諸種の問題に關して多數多様なりと雖ども、片々たる斷篇零説は諸氏の修養に伴ふ眼識の撰擇に任じて毫も支障なかるべく、唯稍組織的に述説せられたる二三問題に關する雜書、又歴史的に研究せられ、其の理法の應用經濟の裨補として有益なるもの數種を掲ぐれば、則ち左の如き諸書は尠なくも諸氏の一讀を値ひするものなり。

ゼヨーチー、ホーウキヤ、資本勞働の抵觸

George. Howell: The Conflicts of Capital and Labour. (London: Macmillan & Co) 全一冊、六百五十頁、定價四圓五十錢。

本書は勞働と資本の抵觸上に生起する經濟問題を英國事實史上に討究し、勞働社會、商業組合、同盟罷工等の其起原由來沿革性質等の説明より、一般之等の經濟現象

が相互間に及ぼす又社會全般に波及する影響を評論討究す。

ボーム、バーク、資本と利子

Böhm-Bawerk: Capital and Interest. (London: Macmillan & Co) trans by W. Smart. 全一冊、六百四十四頁、定價凡そ七圓五十錢。

本書は資本と利潤問題に關し、之を歴史上より討究論駁し、實例豊富議論秀抜、吾人の依て以て啓發せらるゝもの太だ多し、資本と利潤の理法に關しては必ず一讀を要すべき著書なり、譯文周到にして、難解の箇所は譯者務めて平易の文字を用ひたり。

リチャード、イリイ、獨占とトラスト

R. Ely: Monopolies and Trusts. (London: Macmillan & Co) 全一冊、六百四十四頁、定價凡そ一圓、\$1.25

本書は獨占とトラストの理法に關し、尤も健全なる論説を加へたり、該問題は近世經濟現象中、深酷にして勢力旺盛なる新現象に屬し、苟も經濟に志す人士の必ず熟考深慮を要する所のものたり、本書の如き此の間の參考書として是非諸氏の一讀

を要するものなり、更に本書と本問題に關して併せ講ずべき書は、ボン、ホール氏の著述とす、即ち左に掲ぐるもの之なり。

ボン、ホール氏のトラスト

E. Von Halle; Trust of Industrial Combinations and Conditions in the United States. (New York: Macmillan & Co) 全一冊、小判券百頁、定價參圓、\$1.25.

イリー氏の著は一面社會問題として論題の性質に觸るれども、本書は専ら經濟問題に立脚し、即ち毫も道徳的意義に顧慮する所なく、單に經濟政策として其の當否曲直を論ずるが故に、純經濟理法として本問題を攻究せんが爲めには、前者よりも更に有益の書とす、而して本書の所論は全體に於て公平無私、能く問題の真相を披瀝するものと謂ふべし、更に本問題の性質内容の梗概を説明せるものは、左に掲ぐる著書を以て良善とす。

ゼー、ビー、クラーク、トラストの權勢

J. B. Clark. Control of Trusts. (New York: Macmillan & Co.) 全冊、小判八十八頁、定價凡々八十錢

本書は合同獨占の眞價に就て論ずるものにして、即ち吾人々類がトラストの爲めに變るべき影響如何を論究し、トラストの眞價實質又其の法律との關係に就て簡明に其の要緊を捕捉し、能く實際と理論に涉りて穩切なる見解を釋明す、トラストに關する主なる旨趣を窺はんが爲めには、簡にして有益なる著書なり。

エフ、エー、ウォーカー、勞銀及勞銀階級に對する研究

F. A. Walker; A Treatise on Wages and the Wages Class. (New York: Henry Holt and Co.) 全一冊、小判四百二十八頁、定價四圓五十錢、\$2.00

經濟問題として新たに吾人の注意を深酷に喚起するものは、彼の勞銀及之等下層階級の改善救済問題にあり、而かも之等に關する研究は、之を單に理論上の研究對境としては、普通乾燥無味として一般の看過を受く、然るに本書は、諸種の方面より興味深く本題を論じ來たり、所説穩健にして理趣に富み、又學理上の研究として最も完全なる著述に屬す。

デー、エー、ウェッルス、近世經濟の轉機

D. A. Wells; Recent Economic Changes. (New York: D. Appleton and Company.) 全一冊、小

第六卷 應用經濟學 應用經濟法に關する著書叢書

第四百七十八頁、定價凡そ五圓、

本書は最近二十年間に於ける人文の進歩、社會思想の發達、物質的發暢の結果が、社會經濟の根本に一大動勢を與えんとし、否既に舊來の經濟的活動行爲に較著なる改變を加へ、又改變の爲めに動亂を醸したるもの甚だ尠ならず、例令、改善せられんとする勞働問題乃至賃銀問題の如き、或は工場の時制、或は女工兒童職工に對する保護問題の如き、此の他同盟的連合の旺盛なる趨勢等、皆之れ最近時經濟界に著しく表現し來たりたる改變の現象たらざるはなし、本書の論ずる處は、即ち之等種々なる方面の改變内至動亂の現象に就き、其の動機過程、性質、方策等の真相關係を論述し、所論切實特に一讀を拂ふの價值あり。

エス、エヌ、パットン、財資繁榮の原理

S. N. Patten, The Theory of prosperity. (New York: Macmillan & Co.) 七一冊、六四二頁

十五頁、定價四圓五十錢

本書は一面社會問題として經濟事象を考究し、收入、勞働、賃銀、獨占利潤權利等の其の正當なる基礎、實際上の狀態改良すべき諸點等に就き、犀利なる論評を加ふ、所説

稍高遠に馳せ、或は初學者に取りては解讀に苦しむものあらんも、文の險難を忍び、勉めて一讀するの價值ありと信ず。

此の他英語書に於て吾人の參考讀破すべきもの多々ありと雖ども、餘は諸氏の志す方面に従ひて取捨撰定するに任じて可なるべく、先づ當初經濟學の應用理法に關して尠なくも一讀を拂ふの要あるものは以上の諸書とす、而して本邦語に於て之等に類する雜著を求むれば、其の一讀に値ひすべきものは略ぼ左に掲ぐるが如きものとす。

金子堅太郎著

經濟政策。東京日本橋區通一丁目、大倉書店、大判六頁、定價一圓八十錢、

本書は、經濟政策の組織的理法を講究せるものには非ずして、經濟政策に關する著者の數多の論證主張を蒐聚せる政策論集と謂つべき著書なり、其論の涉る處、諸種の工業、工藝、殖産事業に係り、又内外貿易の商業に關する地位の關係より、物産、諸貨物の經濟政策上に於ける眞價を論及し、苟も經濟に關する應用の理法を研究せんと欲する諸氏は、須らく一讀を拂ふの價值を有するの良書たり、予は敢て本書の眞

價を其の議論の秀抜にして所説の健全なるの故を以て敢て諸氏に推稱するには非ざれども、多く方今學生諸氏が、單に抽象の理法にのみ心酔し、尤も實際的考究を要する學科の性質に拘はらず、其の實際を等閑に附せんとする心度に警告し、特に本書の如き實際問題に論及せる著述を、進んで諸氏が讀究せられんとを欲するの微衷に多く出づるものなり。

此の他經濟政策に關しては、土子田島兩氏の共譯になれるシヂウキツク氏の著、又抄なくも一讀の要あるべし。

土子金四郎田島錦治共譯

經濟政策。東京市牛込區早稻田大學出版、全一冊、大判三百三十一頁、定價一圓四十錢。

本書は、經濟政策の一般問題に關し、之を經濟學理上より科學的に論究せしものにして、書中天賦自由主義を生産上より論説し、又政府と産業の關係生産を進捗せしめんとする政府干渉の主なる場合等より、自由保護貿易の利害長短、公正なる分配法の原理、經濟的分配、經濟と道德との關係等を、太だ秀抜に論じたり、譯述時に意義

散漫に陥れるものありと雖ども、諸氏の熱心なる熟讀を以てせば、蓋し啓發する所其の勞に酬ひて餘りあるべし。

木本光三郎著

放 資。大阪市東區南久寶寺町四丁目、前川書店、全一冊、大判五百〇四頁、定價壹圓貳十錢。

本書は、放資の意義、資本と利子、手形の割引、有價證券に對する放資の性質、効用目的、理法等を、攷究し、述説未だ本題の全般を通論するに至らずと雖ども、放資の主なる方面に對しては、其の大意を穩切に論説せり、我が國に於ては、殊に放資てふ問題は、吾人の尤も注意を拂ふべき主題の一なるを以て、本書の如き特に一讀を向くるの要あるべし。

關一、福田德三共譯

商政經濟論。東京日本橋區通一丁目、大倉書店、全一冊、定價六十五錢。

本書は、獨逸の碩學ワグナー、ブレンタノ二氏の農業國工業國の政策に關する議論、及之に對するシユモラー氏の評論を譯述せるものにして、二氏の議論は學理と實

際に涉りて秀拔なる見解を披瀝し、更にシュモラー氏の評論能く其の長短を指摘せり、譯述原意を傳ふると拙ならず、宜しく吾人の一讀すべき參考の價值を有するものなり。

後藤勇著

シンデゲート及トラスト 東京日本橋區本町三丁目博文館、全一冊、三百五十頁、定價六十五錢

合同組合及トラストは今や二十世紀の經濟界に旺盛なる勢力を波及せんとする新經濟現象にして、經濟理法に志すもの、必ず一顧を拂はざるべからざる事理とす、本書同問題に對する論述は、單に其の實際の經過に就て説明を加へたるに止まり、未だ同問題の根柢を深く討究せるものと謂ふを得ずと雖ども、先づ其の輪廓を知らんが爲めには、初學者に恰當なる一著とす。

高木正義著

トラスト 東京市牛込區早稻田大學出版部、全一冊、定價三十錢。

本書はトラストの性質作用、即ちトラストとは如何なる性質のものにして如何なる

る影響を社會及經濟界に與ふるかを簡單に説明せるものにして、トラストの輪廓を知らんが爲めには、本書を以てするも可なりとす。

田尻稻次郎述

經濟學應用新論 専修學校講義錄(凡例參照)全一冊、凡そ二百頁。

本書は應用經濟の四方面、即ち一、氣象に據りて國土を經緯すると、二、土地に關し開墾其の他改良を妨くる所の慣習の有無を調査し、若し之あらば之を除却し、併せて土地の改良を計るの方法を講究すると、三、小仕掛組織的作業の發達を計ると、四、諸般の取引の基礎を資本勘定とし、我が輸出物の相場を立るは輸出物其のもの、生産費に依り我より之を定め、以て四海の競争場裡に勝を制するの基を定め、外國市場の價格は只參考となすべきとの理法を講述し、統計表と説明に依りて一國の實利實害を以て其の政策の基礎とす、一場の主張に過ぎずと雖ども、尙ほ一讀するの要あるを信ず。

小手川豊次郎纂譯

恐 慌 論 東京日本橋區本町三丁目博文館、全一冊、大判二百頁、定價三十

錢

經濟界に於て吾人の尤も注意警戒せざるべからざるとは恐慌の一現象なり、一朝恐慌の爲めに財界の順潮を擾亂せらるゝに至りては、管に逆境の當時のみならず、餘累は長く後年の萎靡衰凋を醸し、經濟行動の發暢を妨ぐるゝこと太甚し、之を以て、吾人が豫め恐慌の因て來たる原因を檢覈し、常に之に備ふる所あるは尤も肝要なるに屬す、本書は近代有名なる彼のチャールズ、エー、コナント氏の恐慌論を譯述し、實際と理論に涉りて其の原因理法を遺憾なく攷究す、而して譯者能く其の原意を傳ふるを以て、吾人が特に一讀を拂ふの必要あるを信ず。

佐々木雄二郎著

金融論、東京日本橋區本町三丁目、博文館、全一冊、大判三百十八頁、定價

四十錢。

金融は、之れ亦經濟界に於ける尤も重要なる經濟事項にして、經濟理法中吾人の眞摯なる研究を遂行せざるべからざる一事に屬す、本書は金融の機關手段等の説明より、其の原理に關して、資金の需用不動なる場合と、其の供給の不動なる場合と、需

用供給共に變動する場合の三方面より論究し、金融の一般原理に關して穩切に其の概要を攷究す、金融の何たるかを知らんが爲めには、簡にして要を得たるものなり。

此の他吾人が應用經濟理法に關する雜著として見るべきもの種々の方面に多々あるは言を俟たず、這是宜しく諸氏が専ら其の向ふ所に從ひ、適宜に撰擇取捨して誤る處なかるべし。

第七章 補助學科

一、民法 商法

法律の研究法には法文解釋法と法理研究法の二あり、前者は、一國の法規として制定行施せられたる成文法律を研究の對當となし、其の條文の意氣を解釋して法律の如何なるものなるかを討究する方法にして、後者は、現行法は云ふを須たず法律の法として成立するを得べき其の根本原理を研究する方法を謂ふ、即ち前者は實際を目的とし、後者は理論を主とす、予が爰に所謂民法商法の研究を云々せんとするものは、其の法文解釋法を意味するものにして、専ら實際を目的とし、現行法規の各條文を解釋するを謂ふ、或は曰はん、法には法の精神あり、人は其の精神を修養して後始めて法の解釋を能くす、成文法規と雖ども、此の精神を究達するに非ざれば未だ以て真正に條文の解釋を能くすべしに非ず、而して此精神を修養するは即ち法理の研究に在りと、然り、吾人若し専門に法律の研究を以て唯一の目的となし、法の真義を發見するを自己の職能とせば、法律の根原理法より其の實際應用の理

法に至る迄、通く學理と實際に考覈し、寸毫も成文法の精神を認るなく、又其の缺點に對しては、更に改善を企圖するの意志を以て全力を傾注せざるべからず、然れども普通日常の人爲行動を規定し、普通一般人の遵守を考定せる現行成文に於ては、其の意義必しも高遠なる學理を以てするに非ざれば解釋する能はざるが如き深奥の意義のみを含むものに非ず、其の條文の規定する處、唯其の條文の意味する處を解釋するを得ば、以て法文解釋の日常上の目的を達するを得ざるに非ざるが故に、成文法を一科の補助科として研究せんが爲めには、主として常識を基礎とする成文法研究のみを以て十分足れりとなすべし、但其の理想を望むの諸氏に對しては、固より予が異議を挾むの理由なきは言を須たざるなり、然るに同じく法文解釋と云ふと雖ども、其の解釋の方法に於ては、又自から二様の研究態度を有し、即ち一は専ら應用を目的とし、法文を解するに法規全體の統一には餘り重きを置かず、條文の順序を追ふて個々單獨的に法文の意義を解釋し行くの方法に準據し、他は學說を主とし、純理を目的とするものにして、條文の順序如何には關せず、其の理論の統一を主眼とし、法規全體を一體として解釋し行くの方法を採用す、二者元より一

長一短ありて、即ち前者は各條文を一條々々周密に解釋し行くが故に、遺憾なく各條文の意義を解盡し、其の適用上空理空論に失するの憂なきが如しと雖ども、亦唯每一條の解釋に拘々たるの結果、法規全體に貫徹せる原理精神の存する處に暗く或は却て皮相淺薄なる固陋の見界に陥り、小刀細工的纖巧跋曲の解釋を演出するの弊を有す、後者は又條文の順序如何に重きを置かず、法規全體の上より主として法の精神を討究し、其各條文の相關係する次第を明らかにして、瑣末の事柄に拘々たらず重要な原則に向つて特に明確なる判断を與ふるを以て、法規全體に一貫せる法の主旨秩然として到徹し、妄りに小役人的穿鑿を弄するの弊に陥るの憂なしと雖ども、之れ又偏に理論の貫徹を重んじ、學說純理を尙ぶの結果、言論屬々高遠に馳せ、延ひては空論に傾ひき、實際的應用に適切ならざる弊を有し、到底他を排し其の一のみを以て眞に研究の目的を達する能はざるや論なく、宜しく兩者相神補し、相互長短を交換して以て圓滿なる解釋の目的を達すべきものなりと雖ども、純理學說を主とするものは多く法理の研究と相密接し、性質上専門的攷究の範圍に入るを以て、補助學科として成文法規の一般を窺はんが爲には、寧ろ重を應用的解

釋法に置き、唯條文の意義を周密に得會せんとに努むべし、即ち以下載掲せる數書は、予が此の目的の下に收釋せるものなり、

梅謙次郎著

民法要義、東京市麹町區富士見町、和佛法律學校、全五冊、總則壹圓廿錢、物權

壹圓五十錢、債權壹圓七十五錢、相續壹圓卅五錢、親族壹圓七十錢、

本書は常識を以て能く條文の意義を解するを得るが如く、各條通俗平易に其の實際と理論に涉りて説明す、實用の參考には太だ適當なり、

松波、仁保、仁井田、合著

民法正解、東京市神田區一ツ橋通、有妻閣、全三冊、總則一圓七十錢、物權二圓

十錢、債權二圓七十錢、

梅氏の要義は専ら實用を重んじ、之を學問上よりすれば、稍平叙に過ぎたるものあり、能く之を補ふものは右民法正解なり、本書は理論に重を置き、條文の解釋と共に法理の精神をも發揮せんとを勉めたり、随つて稍平明を缺き、其の研究順序より之を謂へば、梅氏の要義に依りて一般概念を就盡し、後本書に於て參考討究すべきな

り、但し右正解は總則物權債權の三篇を以て暫く全卷となせるが故に、親族相續の二篇は他の著書に依りて参考せざるを得ず、而して之をなすもの奥田氏の著述とす。

奥田義人著

民法親族法論

民法相續法論、東京市神田區一ツ橋通、有斐閣、親族一圓十錢、相續九十錢。本書は理論と實際を穩切に考量し、各條の意義を統一を重んじて平易明瞭に講述す、親族相續の兩編に於ては尤も良好なる著書とす。猶ほ民法に於て總則編は全篇の基礎をなすものにして、之に詳細なる解釋を與ふるものは富井氏の著書とす。

富井政章著

民法原論、東京市神田區一ツ橋通、有斐閣、全二冊、總則上下貳圓四十錢。

本書は總則の各條に涉り、學理と實際を參照し、理論明確説明周到に全意義を解釋す。

民法は以上を以て十分足れりと信ず、商法に於ては、先づ其の簡便なるものは丸山氏の著書にして、左に掲ぐるもの之なり。

丸山長渡著

商法要義、東京市神田區表神保町、同文館、全二冊、定價二圓三十錢。

本書は商法の全篇に涉り、各條の意義を簡單平易に解釋し、能く初學者をして商法の梗概に通ぜしむ。

志田輝太郎著

日本商法論、東京市神田區一ツ橋通、有斐閣發行、總則七十五錢、會社二圓五十錢、商行爲一圓、手形一圓五十錢。

本書は理論と實際を兼ね、周到なる説明を以て商法の四篇を論述し、特に適用の意義を明らかにす。

原嘉道

海商法、東京市神田區一ツ橋通、有斐閣、全一冊、講義錄

本書は海商法の精神を發揮し、各條の意義を明確に正解す。

更に保險法に就て適當なる著書を求むれば、

栗津清亮

保險法 東京市神田區三崎町一丁目、法文書院、全一冊、一圓。

本書は保險法の意義を簡明に解釋す、

商法に關しては以上を以て其の一般を窺はんが爲めには十分なるべく、猶ほ周密なる討究を欲する諸氏は、宜しく法律家専門の指導に問ふ所あるべし。

一、統計學

實際を重んずる學理研究に於ては、統計學の研究太だ切要にして經濟學研究に於て應用經濟の部門に入りては殊に統計の智識は必須の要具たり、吾人の論理上の推理は、多く一方面にして又一直線の傾向あるを免かれず、然るに實社會の行動的現象は、千態萬狀複雑多端にして、其の理の相關し相係る處、到底、一假定の推理の能く達觀し得べき處にあらず、夫等複合的作用に依りて、醸出せらるゝ眞理は、須らく夫等複合的事實の萬種を分解し、比較し、彙類し、總合し、其の大勢の基く所を觀察し

て始めて僅かに其の現象の因て來たり由て歸する處を愉快するを得るのみ、而して此等の作用をして最も正確ならしむるものは即ち統計學の智識なり、されば殊に實社會の日常行動に關係深き經濟學に於ては、統計學の智識の切要なるは敢て予が嚙々を須ひる迄もなきとなるが、元來統計の智識は、主として方法に關する説明的學術に屬し、單に之を理論上の智識としてのみ研究を満足せんには、殆んど其必要の大半を滅殺するものにして、諸氏は統計學の研究に望んでは、宜しく此の思念を以て單に其の就學するを以て足れりとせず、其の法方作用に關する説明を得し、自から之を實地に應用するの術數に練熟すると太だ肝要なるととす、而して之を修習せんが爲めには以下列舉の數書を以て足れりと信ず。

吳 文聰著

純正統計學 東京市日本橋區通三丁目、丸善書肆、全一冊、百〇四頁、定價凡そ

五十錢。

本書は統計の學問上の地位部門を明らかにし、其の純理上の原理を攷究す、統計の如何なるものなるかを知り、又統計の目的、其の一般原則に對する研究書としては

明瞭簡潔尤も推稱するに足る。

横山雅男著

統計通論。東京市神田區今川小路、専修學校、全一冊、三百十四頁、定價一圓。

本書は統計の純理應用に亘り、其の一般原理及其の方法に關する一般原則を論述し、論察に當り述要を明らかにす、前者と併せ講ぜんには、統計學の一般は大畧就て學ぶを得べし。

吳 文聰譯

經濟統計學。東京市牛込區、早稻田大學出版部、全二冊、定價貳圓。

本書は米國メ・ヨースミス氏の著を譯述せるものにして、經濟に關し統計學の應用上の原則理法及其方法を尤も精細に論究す、若し前二者に依りて統計に關する原理的智識を就修し、本書に依りて更に經濟上に於ける應用理法を修得せば、補助科として要する吾人の統計上の智識は、左迄遺憾なく該究するを得べけん。

猶ほ統計學に就て深く研究せんと欲する諸氏は、吳文聰氏の純正統計學の卷尾に掲げられたる參考書に就て討究を計らるべし、同部には、歐米及本邦に於ける統計

學に關する著書を遍く蒐集列舉せり。

三、社會學

社會學の一科獨立の科學として學界に旗幟を樹つるに至りしは事太だ近代に屬し、其の内容の定義に至りては、多く紛々として歸一する處なし、然るに吾人が經濟學研究の補助科として要する社會學の効用は、之れを統計學に比すれば其の必要の程度に於て太だ渺なく、其の關係に於ても又太だ間接的關聯を有するものなり、社會學の内容の範圍部門地位目的等に於て互に見解を異にするは、各自其の意見を正當に抱持するものにして、今俄かに當否曲直を論定する能はずと雖ども、何れの社會學も、社會の起原由來組織狀態を以て主なる研究の題目となせるは自から相一致契合せるが如し、而して斯くの如き研究が經濟學に必要な關係を有する關聯は多く經濟學の廣義社會學の一科として其の倫理的方面より有要の補助科として要せらるゝものにして、直接純理經濟理法の研究に相密昵せる効用を有するにあらず、されば寧ろ社會學の効用としては、其の純理の研究より、彼の社會問題勞

働問題等の如き、社會學の應用に屬する問題の研究を以て比較的切要の補助學となすべきなり、之れ斯くの如き問題の研究は、社會の改善を目的とし、其の觀念の基礎全然倫理の道念に立脚し、此の道念は纏て經濟學が社會學の研究を要する道念と相合するものなればなり、然れども、既に研究の題目を以て社會と謂ふ、其の内容の廣汎にして複雑なるや、到底吾人が短日月を以て精細なる研究の目的を達する能はざるや論なきなり、されば予は數多の著書を掲げて空しく諸氏の心度を散漫せしめんより、穩切に一般原理に亘れる恰當の著書を數書撰び掲げ、以て諸氏の眞摯なる熟讀の心度を乞はんとす。

ゼーバースカム社會學

J. Pascom; Sociology. (New York: G. P. Putnam's sons) 全一冊、大判二百六十四頁、定價四圓、\$1.75

本書は平易通俗に社會の一般原理を述説し而かも理論毫も科學的研究に背く所なく、社會學の習慣、政府、經濟學、宗教、倫理學等に關する關係を明らかにす、初學者に

取りては、太だ適當なる研究一般書と謂ふべし。

エル、エフ、ワード、動的社會學

L. F. Ward; Dynamic Sociology. (New York: D. Appleton & Co.) 全一冊、小判三百頁、定價凡そ參圓。

本書は社會活動の目的本分狀態に關し、穩切又秀拔に其の原則原理を論述し、社會なるもの、本義を學ぶに簡潔平明なり。

エフ、エツチ、ギッデキングス社會學

F. H. Giddings; The Elements of Sociology. (New York: Macmillan & Co.) 全一冊、大判三百餘頁、定價二圓七十錢、\$1.10

本書は純正社會學と謂ふべきものにして、最も抽象的思索により、社會の形體實質を考究し、其の原理原則の基本を悉く學問的考究の一元に歸一せしむ、爲めに論稱高遠に馳せ、理亦複雑せる箇所多しと雖ども、吾人が思索討究を拂ふに尤も淵深なる著述と謂ふべし、氏は更に本書を敷衍し、「ブリンシブルス、ヲフ、ソシヨロジー」同會社發行定價六圓五十錢なる大冊を公にす、其の原理に於て敢て前者と異なるなく、

而して本書は、本邦語に遠藤隆吉氏に依りて譯述せらる、譯文暗晦單獨の講讀書として用をなさざるもの多きも、原書講讀の手便としては吾人を啓發するもの太だ多し、書價發行所左の如し。

遠藤隆吉譯

社會學。東京市牛込區、早稻田大學出版部、全一冊、定價壹圓卅五錢。

社會學の一般原理に關しては以上の三著を以て足れりとすべきか、猶ほ餘裕を有する諸氏は、進化論に立脚せる社會學の大家、彼のスペンサー氏の著書に鈔なくも一讀を拂ふべきなり、書名定價は左の如し。

H. Spencer; The Study of Sociology. 全一冊、貳圓五十錢。

“ The principles of Sociology. 全二冊、八圓也。

“ Social Statics. 全一冊、四圓也。

而して社會主義に關して其の一般を論述せる恰當なる著書を擧ぐれば

チー、カークナップ、社會主義の研究

F. Kirkup; Inquiry into Socialism. (Lodon: Longmans Green & Co.) 全一冊、小判百八十八

圓、定價凡を貳圓五十錢。

本書は社會主義の起原山來より、社會主義の性質、内容、目的、其の現代に於ける組織等を簡單平明に説明し、所謂社會主義なるもの、大要を知らんには太だ適當なる一般書なり。

アール、チー、イリー、佛獨及近時亞米利加に於ける社會主義

R. T. Ely; French and German Socialism. (New York: Harper & Brothers.) 全一冊、定價壹圓七十錢。

“ Recent American Socialism. (Johns Hopkins University Historical Series, Baltimore)

全一冊、定價凡を貳圓五十錢。

前者は近代に於ける獨佛の社會主義の性質、目的、傾向を公平に觀察論究し、後者は亞米利加に於ける近代の社會主義の内容を遺憾なく論述す、二者併せ讀まんには、近代に於ける社會主義の主なるものは大畧其の要を窺ふを得べし、猶ほ進んで研究せんと欲せば、左の著書は何れも良好なる參考書たるべし。

F. Lavelleye; Socialism of to-day. (New York: Charles Scribner's sons.) 定價參圓。

A. E. F. Schaeffer: Quintessence of Socialism. (New York: Humboldt's publishing Co.) 一冊、廿錢、
 Karl, Marx: Capital. (New York: D. Appleton & Co.) 全一冊、二圓四十錢、
 J. Rae: Contemporary Socialism. (New York: Charles Scribner's Sons.) 全一冊、五圓也、
 勞働問題貧窮問題に關しては精しくばリチャード・イッリーの「マウツライン」
 エコノミックスの卷末に掲載せる参考書部に就て見らるべし、内尤も一般的素質
 に富み以て一讀すべきものは、

Rev. W. Gladden: Working people and their Employers. (New York: Funk & wagnalls.) 二圓也、
 F. A. Walker: The wages Question. (New York: Henry Holt & Co.) 全一冊、定價四圓也、
 G. Gunton: Wealth and progress. (New York: macmillan & Co) 定價凡そ八圓四十錢、
 N. P. Gilman: profit-Sharing between Employer and Employee. (Boston, Houghton. Mifflin &
 Co.) 定價三圓五十錢、
 H. Fawcett: pauperism its Causes and Remedies. London: (Macmillan: & Co.) 壹圓五十錢、

何れも能く題目に應じ、理論と實際に秀逸なる論述を究めたり

本邦語書の社會學、社會主義、及勞働問題に關して一讀すべき著書を選択すれば、

浮田和民講述

社會學。東京市神田區小川町、開發社、全一冊、大判四百十八頁、壹圓拾錢
 本書は社會學の概念、社會の眞性、社會の物的方面、心的方面、及其の組織進化狀態目
 的に就て尤も學理的考究に富める述説を加ふ、文講義體なるが故に、平明にして何
 人も能く其の旨意に通曉するを得。

岸本乃武太著

社會學。東京同支社、發行全一冊、參百餘頁、定價八十錢。
 本書は社會の起原發展變遷の狀態より、社會の目的に就て平易通俗に述説す、社會
 學の一般に通せんには、尤も恰當なる著書とす。

建部遜吾著

社會學序説。東京市日本橋區本町三丁目、金港堂、全一冊、定價壹圓五十錢。
 本書は社會の本性に就て、物的心的兩面より其の一般原理を論述す、本書は氏の序
 説に過ぎずと雖ども、素養ある諸氏は、須らく一讀を拂ふべき思索に富める純正社
 會學と謂つべき著書なり。

福井準造著

近世社會主義。東京神田區一ツ橋通有斐閣、全一冊、五百餘頁、壹圓參拾錢。

本書は近世に於ける英佛獨の社會主義の内容性質狀態より、近時歐米各國に遍在せる社會黨の本性主義等を平明に説明す、

森山親規譯

新舊社會主義。東京日本橋區本町三丁目、博文館、全二冊、前篇十二錢、後篇十二錢。

本書は英國ウキリアム、グラハム氏の著を譯述し、社會主義の性質より、其の類別を明らかにし、十九世紀以前及近代の社會主義並に現代に於ける新社會主義の趨勢を徹述評論す。

大原祥一著

社會問題。東京京橋區銀座一丁目秀美社、全一冊、二百五十頁、定價五十錢。

安部磯雄著

社會問題解釋法。東京牛込早稻田大學出版部、全一冊、定價壹圓貳十錢。

兩著共に社會問題に對する一般の所見及自己の見解を論述せるものにして、現代に於ける社會問題の内容趨勢は大略就て窺ふを得。

以上を以て社會學及社會主義亦社會問題に關する一般研究の著書は十分なるべけん、猶ほ精しくば福井準造氏が其の著書の末尾に掲げられたる參考書に就て見らるべし。

四、雜誌辭書類

雜誌

The Economic Journal. (Journal of the British Economic Association.) London and New York. Macmillan & Co. 發賣一ヶ年十二圓、

The Economic Leview. (published quarterly for the Oxford University Branch of the Christian Social Union.) London. percival & Co. 發賣一ヶ年七圓八十五錢、

Quarterly Journal of Economics. Boston. 一ヶ年七圓、

Political Science Quarterly. New York. 一ヶ年八圓五拾錢、

前二者は英國雜誌にして、後二者は米國雜誌に屬す、共に學說實際の兩面に涉り、常に秀拔なる論説を以て充たさる、諸雜誌中、吾人の尤も推稱するに足るものなり、定價は總て郵税をも含めて換算せる丸善書肆の廣告に據る。

東洋經濟新報 東京牛込區東五軒町、東洋經濟新報社發行、月三回、一冊郵税共十一錢

東京經濟雜誌 京橋區彌左衛門町、經濟雜誌社發行、毎土曜、一冊郵税共十一錢

實業の日本 麹町區有樂町三丁目、實業の日本社發行、月二回、一冊郵税共十二錢

以上三雜誌は共に専ら時事問題を論説するを以て優るゝ者にして、第一者は天野爲之氏之を主幹し、第二者は田口卯吉氏、第三者は多く世上の名士より之を蒐集す、内外論叢、大阪市東區備後町四丁目、實文館發行、隔月一回、一冊郵税共參拾貳錢

右は法律經濟雜誌にして主として諸學者の學說上の論説を收む

國家學雜誌 東京神田區一ツ橋通、有妻閣發賣、月一回、一冊郵税共十六錢、右は帝國大學法科大學研究室より發行し、時々經濟に關する有用なる論文記事を掲ぐ

以上は經濟に關する本邦に於ける有名の諸雜誌にして、何れも吾人の注意を拂ふべきものに屬す、此の外博文館發行の社會雜誌太陽は、亦時々經濟に關する重要な記事論説を掲ぐ、定價郵税共參拾參錢

辭書

經濟辭書の簡單なるものは多く杜撰にして見るに足らず、原語及本邦語書中より仔細に撰擇すれば、説明平易、文字適當なるものは左の二書に如くものなし。

R. H. I. pulgrave. Dictionary of Political Economy. 全三冊、代價參拾五圓也、

大西林五郎、石丸正誠合著

經濟大字典 東京市京橋區南傳馬町一丁目、弘文館發賣、定價四圓五十錢

第八章 經濟學研究法に關する著書

經濟學の研究法に就ては、古來議論紛々として歸一せず、或は演繹法を可とし、或は歸納法を善とし、或は兩者折衷を以て其の至道となす、現時折衷派一般の大勢となりて、當代の經濟學者は其の學派の如何を問はず多く此の法を以て其の準據となすものゝ如し、而して此等研究法に關する著述は、歐米に於ては其の數敢て尠ならず、稍經濟學研究の歩武を進めたる諸氏は、其の二三善良なる著書を選び、自己の進程を正確ならしむるの要あるべし、但し一般に研究法なる語を耳にする人々は、直に之れ本題に對する案内書なるかの如く思念すれども、科學的討究に關する研究法なるものは、本題の結構よりも其の實質の攷究に對する考索の方式を論究するものなるが故に、前以て本題の結構に關する大畧の素養は多く常に豫見するものなり、之を以て、經濟學研究法に於ても、著書の多くは講讀者の素養を豫め認定せるものなるが故に、研究諸氏は宜しく其の心して之れ等研究法の講讀を計らるべし。

ゼー、イー、ケヤネツス經濟學の特性及論理的研究法

J. E. Cairness, *The Character and Logical Method of political Economy.* (New York: Harper & Brothers.) 全一冊、小判定價參圓五拾錢、\$1.5

タウリニー、エヌ、セボンヌ經濟學

W. S. Jevons, *The theory of political Economy.* (London: Macmillan & Co.) 定價五圓二十五錢。

以上二書は其の經濟學研究法に關し、演繹歸納の長短得失を論究し、其の混亂の迷霧を披拂す、而して前者は伴直之助氏に依りて譯述せらる、即ち京橋區彌左衛門町經濟雜誌會出版經濟要義定價八十錢之なり、明治十七年の舊刊に屬すれども、手に入るゝを得ば就て便覽せられよ。

ルイギョー、コツサー經濟學本書は經濟原論部に掲ぐ

本書亦演繹歸納の研究法に關し、簡明にして明確なる論述を加ふ、尠なくも一讀すべきなり。

ゼー、エル、ローリン經濟學の研究

J. L. Laughlin, Study of Physical Economy. (New York: Appleton and Co.) 全一冊、小判百五十錢、定價凡七拾圓、

本書は經濟學の性質を明らかにし、其の研究法の因て定まる處を平明簡易に説明す、ケヤネンヌ氏の論述の参考として初學者に恰當す。

シボツキツン經濟學の範圍と研究法

H. Sidgwick, The Scope and Method of Economic Science (London: Macmillan & Co.) 小判五十七錢、定價六十五錢、

本書は氏がアバーデキンに於ける經濟及統計學會に於ける一場の演説を校訂刊行せしものにして、簡潔に經濟學の部間と研究法の要緊を講述す、寧ろ一場の議論として見るべきものなれども、十分一讀を拂ふの價值あり。

ペー、エヌ、キエーンヌ經濟學の範圍及研究法

J. N. Keynes, Scope and Method of Political Economy. (London: Macmillan & Co.) 全一冊、大判百拾圓、定價凡七拾圓、7s

本書は經濟學の範圍及研究法に關し尤も科學的討究を試み、所論述説該博にして

亦穩切なり、唯少しく理論高遠に涉り、初學者は前掲の諸書に就て研究法の一般を修め、然る後參考するにあらずんば或は暗澹にして通曉すると難からん、本書は天野氏に依りて翻譯せらる、即ち左に掲ぐるもの之なり。

天野爲之譯

經濟學研究法。東京牛込區早稻田大學出版部、全一冊、定價壹圓。

譯文廻旋爲めに往々意義晦澁する箇所あれども、素養を以て熟讀せば、大略旨意の存する處は就て學ぶを得。

此の他容易に手に入るを得ば諸氏餘暇を費いて尠なくも左の三部に「讀を拂ふべきなり、

S. N. Patten, The Educational Value of Political Economy. 定價凡七拾圓八十五錢、

J. S. Nicholson, Political Economy as Branch of Education. 定價不明、

A. Marshall, The present position of Economics. 定價不明、

以上を以て研究法に關する書籍と共に本書の終りを結ばんとす、續つて各部其の綜攝の跡と願れば、統一整齊未だ宜しきを得ず、願初本書の明言する處と其の効驗

を實際に於て缺如せるもの太だ夥なからず、之れ百卷の性質上已を得ざるに出づるものありと雖ども、亦以て著者の不敏に歸せずんばあらず、幸に諸氏の明察に依り、其缺を補ふて幾分の益を收むるを得ば、著者の満足之に過ぎざるなり。

經濟學研究參考書調

明治十七年六月十二日印刷
明治十七年九月十五日發行

定價金六拾圓

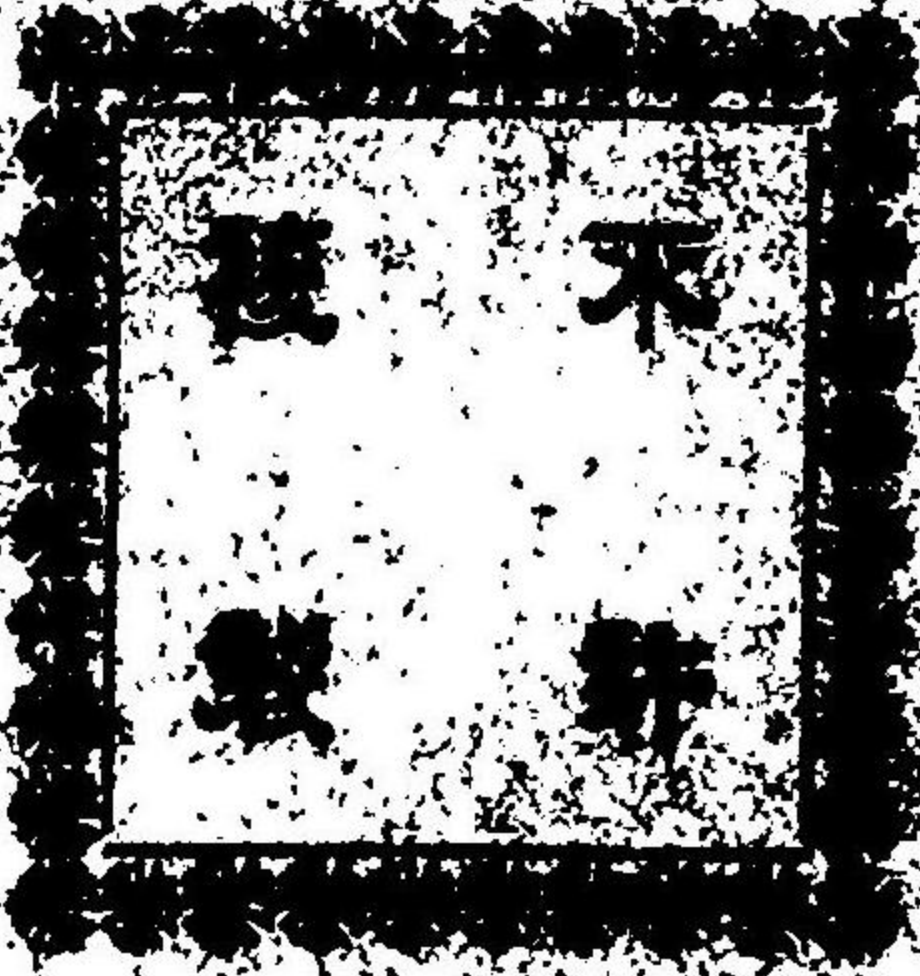
松尾勇四郎

印刷者

森 潤 二

印刷所

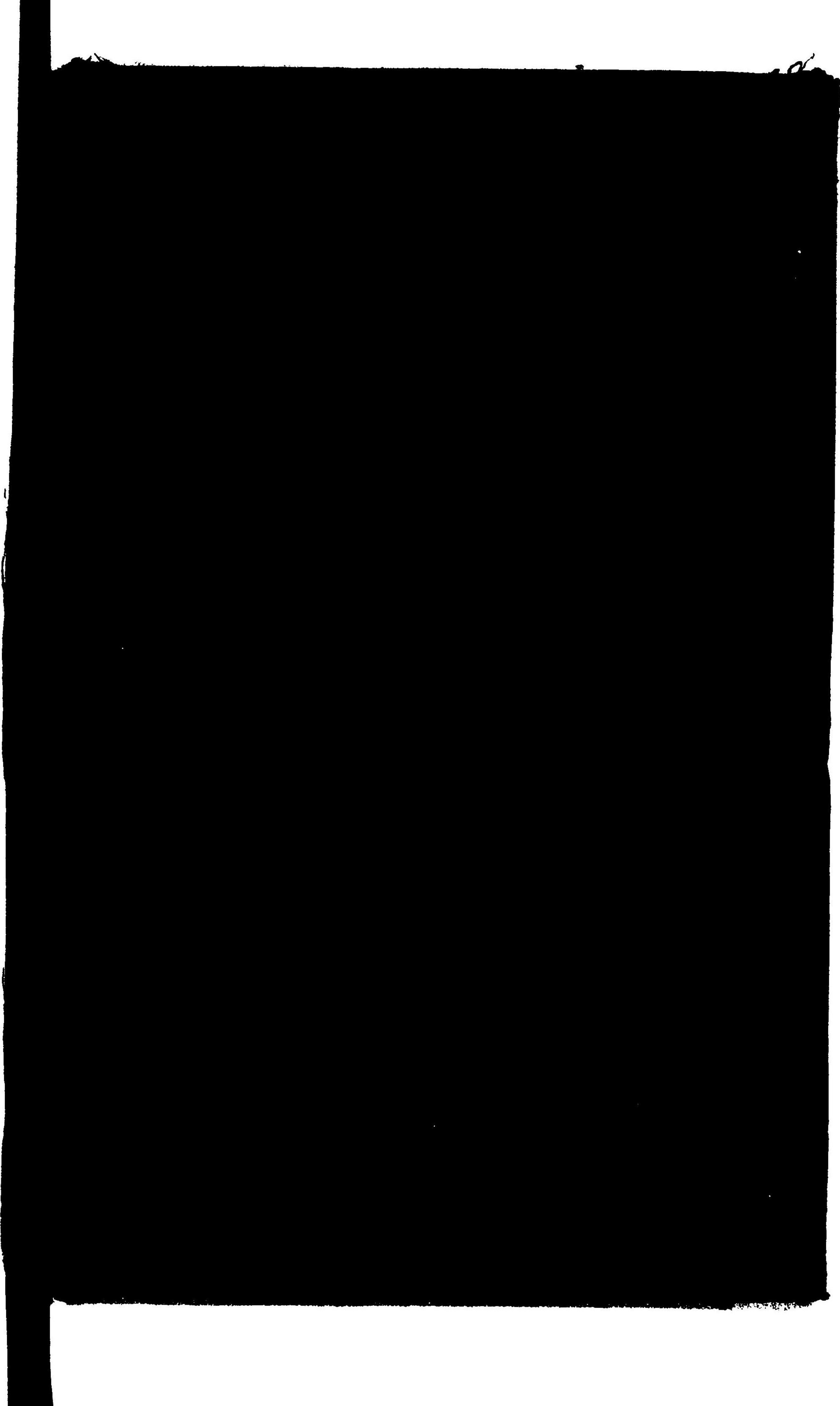
株式會社 秀英舎第一工場

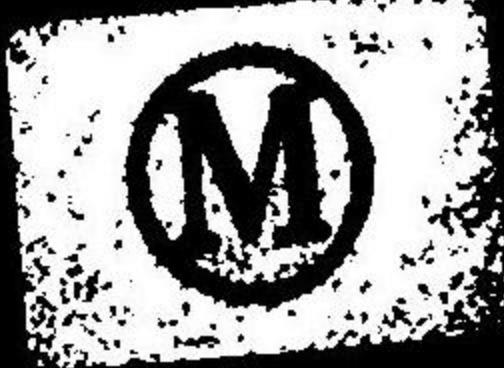


東京市牛込區西千石二丁目十二番地
株式會社 秀英舎第一工場
社



1771
1781





040106-000-9

44-341

経済学財政学研究参考書調

松尾 勇四郎 / 著

M37.9

BDD-0088



